

者ニ對スル物件返還損害賠償ノ四分ノ一以下二十
五「フランク」以上ノ罰金ニ處セラルヘシ

前條第二項ニ記載シタル規則ハ尙ホ之ヲ適用スル

コトヲ得ヘシ刑九、四〇以下、五二以下、

第三百九十二條

物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

○本條モ亦前條ト同ク詐欺取財ヲ以テ論スヘキ一種ノ所爲ヲ定ム

物件ヲ販賣スルトハ代價ヲ得テ物品ヲ人ニ讓ルチイヒ物件ヲ交換スルトハ自己ノ物件ヲ他人ニ與ヘ其代價ト

シテ他人ヨリ物件ヲ受クルチイフ今此契約ヲ爲スニ當リ其目的トスル所ノ物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ之ヲ交付シタル者ハ即チ人ヲ欺テ不正ノ利得ヲ得タルモノナリ故ニ本條詐欺取財ヲ以テ論スヘシト定メタリ
物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シテ人ニ交付スルトハ定マリタル物質ニ付キ契約ヲ爲シ後偽物ヲ交付スルチイフ例ヘハ蠶蠶紙若干枚ヲ賣買スルノ契約ヲ爲シ物品引渡ヲ爲スノ際菜種ヲ交ヘタルモノヲ交付シ又ハ金器ノ賣買ヲ爲シ其引渡ノ際鍍金シタルモノヲ交付シタルノ類ナリ又分量ヲ偽テ人ニ交付スルトハ偽尺偽秤ヲ用ヒ若クハ他ノ方法ニ依リ約定シタル所ノ分量ヲ偽リ減シ之ヲ交付スルチイフ例ヘハ米十石ヲ賣

買シ九合ヲ容ル、ニ過キサル升ヲ以テ之ヲ量リ又ハ砂糖百斤ヲ賣買シ偽秤ヲ以テ之ヲ衡リ其分量ヲ偽テ交付シタルノ類ナリ

或問テ曰ク本條ノ所爲ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ取ルモノニシテ純粹ノ詐欺取財ニ非スヤ然ラハ特ニ本條ヲ設ケタルコト全ク無要ニ屬スルカ如シト曰ク否ナ純料ノ詐欺取財ハ人ヲ欺罔シ若クハ恐喝シテ財物等ヲ騙取スルニ成ルモノニシテ其詐欺ノ所爲タル財物等ヲ取ルノ前ニ在テ而シテ之カ手段タラサルヘカラス然ルニ本條ノ罪ハ賣買交換ヲ爲スニ當テ詐欺ノ所爲ヲ行ヒタルニ非スシテ其物品ヲ交付スルノ際詐欺ノ所爲ヲ行ヒタルモノナリ故ニ之ヲ以テ純粹ノ詐欺取財ト爲スヘカラサル

ナリ

或問テ曰ク然ラハ物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽リタルコトハ決テ純粹ノ詐欺取財ヲ構成スルコトナキ乎ト曰ク有リ例ヘハ鍍金シタル器物ヲ偽テ純金ナリトシ之ヲ高價ニ買ハシメタル者又ハ物品ト代價若クハ物品トテ同時ニ授受スヘキノ約定アル場合ニ於テ分量ヲ偽リテ之ヲ交付シ其代價タルモノヲ受取リタル者ノ類ハ純粹ノ詐欺取財ナリトス何トナレハ此種ノ詐欺ハ人ノ財物ヲ取ルノ手段ナレハナリ
或問テ曰ク上等品ヲ賣ルノ契約ヲ爲シ其引渡ノ際下等品ヲ混シタルモノヲ交付シタルトキノ類モ亦其物質ヲ變シタリトイフヘキ乎ト曰ク物質トハ物ノ品位ニ非ス

物ノ性質ナリ故ニ物ノ品位ヲ變シタルノミニテハ物質
 ナ變シタリトイフヲ得ス然レトモ其性質物件ノ品位ニ
 過キサルモ契約ヲ以テ物質ト爲シタルモノヲ變シタル
 トキハ亦物質ヲ變シタリトイフヘシ例ヘハ歐洲へ輸出
 スル米ハ乾燥脱稈其宜シキヲ得タルモノニ非サレハ運
 輸中腐敗スルノ恐れアリ故ニ此情實ヲ示シ糶糠ヲ排除
 スル丁寧ニシテ殊ニ乾燥ノ充分ナルモノヲ買フノ契約
 ナ爲シタリ然ルニ一方ノ者糶糠ヲ排除スル丁寧ナラズ
 又乾燥充分ナラサルモノヲ混シ欺テ其約スル所ノ精選
 米ナリトシ之ヲ交付シタルトキノ類ハ唯其品位ヲ變シ
 タルニ過キサルカ如シト雖モ而モ此場合ニ於テハ契約
 上物質ト爲シタルモノヲ變シタルモノナリ故ニ品位ヲ

變シタルモノハ之ヲ罰セサルヲ以テ原則ト爲シ實際事
 件ノ模様ニ因リ物質ヲ以テ論スヘキモノヲ變シタルト
 キハ例外トシテ之ヲ罰スヘキナリ
 或問テ曰ク佛文草案ニハ賣買及ヒ物件ヲ目的トスル所
 ノ有償ノ契約云々トアリ然ルニ本條ニ於テハ之ヲ賣買
 交換ノ二者ニ限リタリ是レ果テ能ク其當ヲ得タル乎ト
 曰ク賣買交換ヲ除クノ外契約成立シタル後其目的物ヲ
 交付スルモノナシ故ニ契約ヲ成立セシムルカ爲メニ詐
 欺ヲ行ハスシテ物品ヲ交付スルトキ詐欺ヲ行フモノハ
 唯賣買交換ノ二者ニ在リトシテ之ヲ限リタルナルヘシ
 實ニ借貸契約ノ如キハ物品ヲ交付シタルトキ始メテ成
 立スルモノナレハ之ヲ交付スルトキ其物質ヲ變シ若ク

ハ分量ヲ偽リタルハ純粹ノ詐欺取財ナリ然レトキ立法官ニ於テ之ヲ二者ニ限リタルハ恐ラクハ狹隘ニ失シ實際奸徒ノ法網ヲ免カル者アルニ至ルヘシ請フ左ニ之カ一例ヲ示サン

例ヘハ甲乙ニ米若干石ヲ賃借セシコトヲ求メタリ甲之ヲ承諾シ豫メ其賃銀ヲ取り而シテ其米ヲ引渡スニ當リ惡心ヲ生シ分量ヲ偽テ交付シタルトキノ如キ其詐欺タル賃貸ノ豫約既ニ成リ賃銀ハ既ニ之ヲ受取り而シテ其物品ヲ交付スルニ當リ惡意以テ之ヲ行ヒタルモノナレハ之ヲ純粹ノ詐欺取財トイフヲ得ヌ又例ヘハ小作人小作米チ地主ニ納ル、ノ際其分量ヲ偽テ交付シタルトキノ如キ其詐欺タル契約ノ後ニ在リテ詐欺以テ人ノ財物

ヲ釣取シタルニ非サレハ亦之ヲ純粹ノ詐欺取財トイフヲ得ヌ故ニ是等ハ之ヲ罰スル能ハサルナリ
右ノ如ク販賣交換ノ二者ニ限ラス他ノ場合ニ於テモ亦本條ノ所爲ヲ行フヲ得ルアルヲ以テ余ハ本條ヲ改メテ草案ノ如クセラレシコトヲ希望ス

○佛刑法第四百二十三條 千八百三十五年五月十三日改正 何人ニ限ラ

ス金銀物料ノ性合眞石ナリトシテ賣リタル偽石ノ品質各種ノ商品ノ性質ニ付キ買主ヲ欺キタル者又ハ何人ニ限ラス偽リノ度量衡ヲ用ヒテ其賣リタル物ノ分量ヲ詐リタル者ハ三月以上一年以下ノ禁錮及ヒ物件返還損害賠償ノ四分ノ一以下五十フラン以上ノ罰金ニ處セラルヘシ

其犯罪ノ物件又ハ其代價猶ホ賣主ニ屬スルトキハ
之ヲ沒收スヘシ偽リノ度量衡モ亦之ヲ沒收シテ破
毀スヘシ

裁判所ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ費用ヲ以
テ其指定スル所ノ場所ニ裁判言渡書ヲ貼附スルコ
ト及ヒ其指定スル所ノ各新聞紙ニ裁判言渡書ノ全
部又ハ抜書ヲ掲載スルコトヲ命スルヲ得ヘシ〔刑〕九、
四八〇以下、五二以下、四二七、四七九、
四八〇、四八一、〔治〕一七九

同第四百二十四條 若シ賣主及ヒ買主ニ於テ其取引
ニ國法ヲ以テ定メタルヨリ以外ノ度量衡ヲ用ヒタ
ルトキハ買主ハ禁制ノ度量衡ヲ用ヒテ欺キタル賣
主ニ對シテ一切ノ訴權ヲ失フヘシ但其詐欺又ハ禁

制ノ度量衡ノ使用ヲ罰スルカ爲メノ公訴ヲ起スノ
妨ケト爲ルコトナカルヘシ

詐欺ノ場合ニ於ケル刑ハ前條ニ定メタルモノナリ
禁制ノ度量衡ヲ使用シタルニ付テノ刑ハ違警罪ノ

刑ヲ定メタル此法典第四編ニ之ヲ定ム〔刑〕四七九、四
八〇、四八一、

同第四百七十九條第六 現行法ヲ以テ定メタルヨリ以
外ノ度量衡ヲ用ヒタル者

同第四百八十條第二 偽リノ度量衡ヲ所持スル者

同第四百八十一條第一 偽リノ度量衡及ヒ法律ヲ以テ
定メタルヨリ以外ノ度量衡

第三百九十三條

他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典

物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス
自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱
シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シタル者
亦同シ

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解○他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ借貸
シタル者ハ如何

三 第二項ノ解○動産ノ既ニ書入質ト爲シタルヲ欺
隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シ
タル者ハ如何○不動産ヲ書入レタリト雖モ未ダ
公證ヲ經サルニ當テ重子テ之ヲ抵當典物ト爲シ
又ハ他人ニ賣與シタル者ハ如何○何故ニ本項ニ

交換ノ事ヲ載セサル乎

〔一〕〇本條ハ前二條ト同ク詐欺取財ヲ以テ論スル一種ノ罪
ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ他人ノ動産不動産ヲ販賣交換シ又ハ
抵當典物ト爲シタル者ノ罪ヲ定ム

本項ノ罪ヲ論セント欲セハ先ツ本項ノ罪ハ何人ニ對ス
ルモノナリヤ否ヲ討索セサルヘカラス今本項ニ於テ特
ニ此事ニ從ハントスルハ幾ント蛇足ヲ添フルニ似タリ
ト雖モ本項ノ罪ト第三百九十五條ノ罪トヲ區別シ又第
三百九十八條ノ規則ヲ適用スル等ニ付キ重大ナル關係
ヲ有スルモノナレハ決テ無要ノ業ニ非サルヲ信スルナ
リ

甲乙二論者アリ嘗テ之ヲ論セリ甲曰ク真正ノ所有主ハ
何人ニ對スルモ之ヲ行ヒ以テ
犯スカ

其物件ノ上ニ權利ヲ有シ何人ニ對スルモ之ヲ行ヒ以テ
其物件ヲ取戻スヲ得ルカ故ニ本項ノ罪ニ因リ損害ヲ被
ル者等ハ犯人ニ欺カレテ賣買交換抵當典物ノ目的ト爲
スヘカヲサル物件ヲ受取り又ハ受取ルコトヲ約シタル
モノナレハ爲メニ生起スル損害ヲ免カル、ヲ得ス乃チ
本項ノ罪ハ物件ヲ受取り又ハ受取ルコトヲ約シタル者
ノミニ對スルモノナリト乙曰ク真正ノ所有主ハ必スシ
テ其物品ヲ取還シ得ルモノニ非ス之ヲ取還シ得ル場合
ト雖モ爲メニ多少ノ手數ヲ要スルモノナレハ是レ亦本
項ノ罪ニ因テ損害ヲ被リタリト爲サ、ルヲ得ス乃チ本
項ノ罪ハ二者ニ對スルモノナリト余思フコト甲說能ク其
當ヲ得タリ何トナレハ未ダ其物件ヲ買主等ニ渡サ、ル
トキハ所有主ヲ害スルコトナキハ勿論縱ヒ之ヲ渡シタ
リト雖モ本條ハ其所有主ヲ害セサルトキニ限り適用ス
ヘキモノニシテ其所有主ヲ害スルトキハ之ヲ第三百九
十五條ニ移シテ處斷スヘキモノナレハナリ而シテ其所
有主ニ於テ其物件ヲ取還スルニ付キ多少手數ヲ要スル
コトアルモ是レ其主タル損害ニ非スシテ唯其從タルモ
ノ、ニ故ニ之ヲ以テ本項ノ罪ハ所有主ニモ亦對スルモ
ノナリト爲スヲ得サルナリ今又損害ノ點ヲ擱テ之ヲ論
スルモ仍ホ其然ヲサルヲ知ル試ニ看、他人ノ物件ヲ冒
認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタルハ買主買取

項ノ罪ハ二者ニ對スルモノナリト余思フコト甲說能ク其
當ヲ得タリ何トナレハ未ダ其物件ヲ買主等ニ渡サ、ル
トキハ所有主ヲ害スルコトナキハ勿論縱ヒ之ヲ渡シタ
リト雖モ本條ハ其所有主ヲ害セサルトキニ限り適用ス
ヘキモノニシテ其所有主ヲ害スルトキハ之ヲ第三百九
十五條ニ移シテ處斷スヘキモノナレハナリ而シテ其所
有主ニ於テ其物件ヲ取還スルニ付キ多少手數ヲ要スル
コトアルモ是レ其主タル損害ニ非スシテ唯其從タルモ
ノ、ニ故ニ之ヲ以テ本項ノ罪ハ所有主ニモ亦對スルモ
ノナリト爲スヲ得サルナリ今又損害ノ點ヲ擱テ之ヲ論
スルモ仍ホ其然ヲサルヲ知ル試ニ看、他人ノ物件ヲ冒
認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタルハ買主買取

主等ヲ欺瞞シテ契約ノ目的ト爲スヘカラサル物件ニ付
 キ契約ヲ爲サシメタルモノニシテ所有主ヲ欺瞞シテ其
 所有物ヲ取りタルモノニ非サルナリ若シ然ラストセハ
 何故ニ本項ヲ販賣交換抵當典物ノ四者ニ限り贈與等ニ
 及ホサル乎其所以ヲ解スル能ハサルヘシ
 既ニ本項ノ罪ノ何人ニ對スルモノナリヤチ詳ニセリ當
 サニ是レヨリ進ンテ本項ノ義ヲ釋クヘシ抑物件ヲ販賣
 交換シ又ハ抵當典物ト爲スハ其物件ノ所有權若クハ所
 有權ノ分權ヲ處置スルモノナレハ所有主ニ非サレハ之
 ナ爲ス能ハス故ニ他人ノ物件ヲ販賣交換シ又ハ抵當典
 物ト爲シタルトキハ其契約全ク無効ニ屬スルモノナリ
 然レトモ此所爲タル民事上ノ制裁ヲ受クルニ止マリ刑

附
 月
 日
 確
 定
 物

法ニ觸ル、モノニ非ス唯其之ヲ自己ノ有ナリト冒認シ
 テ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタルトキハ人ヲ欺瞞
 シテ之ヲ信セシメ民事上無効タルノ契約ヲ爲サシメ以
 テ害ヲ加フルアルカ故ニ必スシモ之ヲ罰セサルヘカラ
 ス是レ本項ノ設ケアル所以ナリ然レトモ若シ其物件ヲ
 買主等ニ交付シ買主等ニ於テ正當ニ其物上權ヲ有スル
 ナ得ルトキハ或ハ第三百九十五條ニ依テ處斷スヘキモ
 決テ本條ノ正面ニ當ラサルナリ
 或問テ曰ク確定物ノ賣買交換ハ他人ノ物件ヲ目的ト爲
 ス能ハスト雖モ而モ未確定物ノ賣買交換ハ其物件賣主
 等ノ有タルト否トチ問ハス故ニ本項ノ物件ハ確定物ヲ
 指スモノト解シテ可ナル乎ト曰ク然リ冒認スルトハ確

定物ニ係ルモノニシテ未確定物ニ係ルモノニ非ス故ニ
既ニ冒認スルトイヘハ其確定物ナルコト固ヨリ明カナ
リ

他人ノ物ヲ冒認
シテ借入シタル
ハ其條ニ依テ

○或問テ曰ク他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ貸貸シタル
者ハ如何ト或之ニ答テ曰ク冒認ハ詐欺ノ一所爲ニシテ
即チ人ヲ欺罔スルモノナリ故ニ第三百九十四條ニ依テ
之ヲ所斷スヘシト非ナリ人ヲ欺罔スルトハ必スシモ之
カ所爲ナカルヘカラス然ルニ冒認トハ別ニ人ヲ欺罔ス
ルノ所爲ヲ行ハスト雖モ惡意ヲ以テ他人ノ物件ナルコ
トヲ明カサ、ルトキハ既ニ成立スルモノナレハ冒認ヲ
取テ直チニ人ヲ欺罔シタルモノトイフヲ得ス然ラズン
ハ遂ニ本項ハ無要ノ長物タルニ至ルヘシ故ニ右ノ場合

冒認

ニ於テハ人ヲ欺罔スルノ所爲アルモノハ格別他ハ之ヲ
罰スルヲ得サルナリ然レトモ立法上ヨリ觀察ヲ下スト
キハ未ダ能ク其當ヲ得タリトイフヘカラス故ニ余ハ本
條ニ貸貸ノ一事ヲ加ヘラレンコトヲ希望ス

〔二〕○第二項 本項ハ自己ノ不動産ト雖モ抵當典物ト爲シ
タルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重テ抵當典物ト爲
シタル者ノ罪ヲ定ム
自己ノ不動産ハ既ニ抵當典物ト爲シタリト雖モ未ダ其
所有權ヲ移轉シタルモノニ非サレハ己レ之ヲ處置スル
ノ權アルヤ勿論ナリ故ニ之ヲ他人ニ賣與スルモ又重テ
テ之ヲ抵當典物ト爲スモ固ヨリ所有主ノ隨意ナリ法律
之ヲ罰スルヲ得ス然リト雖モ抵當典物ト爲シタル不動

産ハ義務ヲ負擔スル所ノモノナレハ之ヲ賣ルモ其價安ク又重テ之ヲ抵當典物ニ取ル者ハ第一ノ負債ヲ償却シタル殘餘ノ部分ニ付キ權利ヲ有スルニ過サレハ之カ爲メ其不動産全部ノ價ニ應スル金圓ヲ貸與スル者ナシ然ルニ所有主ニ於テ不當ノ代價ヲ得若クハ過當ノ金額ヲ借ラシカ爲メ其不動産ノ既ニ抵當典物ト爲リテ義務ヲ負擔スル旨ヲ欺隱シ之ヲ他人ニ賣與シ又ハ重テ之ヲ抵當典物ト爲スニ於テハ其買主若クハ第二ノ債主ヲ害スルヤ大ナリ是レ本項ノ設ケアル所以ナリ

典物 抵押物

或問テ曰ク抵當トハ專ラ書入質ヲ指シ典物トハ通常ノ質物ヲ指スモノナル乎ト曰ク蓋シ然ラン抵當モ亦質物ナリトイハサルニ非スト雖モ抵當典物ト書シタルヤ之

ヲ其物件ヲ權利者ニ渡サ、ルモノト解シテ敢テ妨ケアラサルヘシ

○或問テ曰ク吾カ國コハ動産ノ書入質ナルモノアリ今自己ノ動産ノ既ニ之ヲ書入レタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ若クハ重テ之ヲ抵當典物ト爲シタル者ハ如何ト曰ク書入質ハ不動産ヲ以テスヘキモ動産ヲ以テスヘキモノニ非ス動産ハ之ヲ債主ニ渡シテ以テ義務辨濟ノ保證ト爲スコ非サレハ其效アルヘカラサルナリ何トナレハ動産ハ之ヲ他所ヘ動スヲ得ルモノナレハ區戶長ノ公證ヲ經ル如キ公告ノ方法ヲ行フ能ハサレハナリ實ニ吾カ國ノ法律ニ於テハ動産ノ書入質ナルモノヲ認メタリト雖モ刑法ニ於テハ其不理ナルコトヲ認メ以テ不動産ノ既

刑罰... 抵當典物ト爲シタル者ニ非サレハ之ヲ罰スヘカラス

ニ書入質ト爲シタルヲ欺隠シテ他人ニ賣與シ又ハ重テ
ト定メタリ

公証... 公証ハ第三ノ人ニ對シテ其效アラシムルカ爲メ

○或問テ曰ク不動産ヲ書入レタリト雖モ未ダ公證ヲ經
サルニ當テ重テ之ヲ抵當ト爲シ又ハ他人ニ之ヲ賣與
シタル者ハ如何ト曰ク此點ニ付テハ甲乙二説アリ左ニ

之ヲ揭ケ然ル後其當否ヲ論スヘシ
甲説 公證ハ第三ノ人ニ對シテ其效アラシムルカ爲メ
ニ行フ所ノ順序ニシテ其效アリトモナリ既ニ公證ヲ爲サス

乙説 實ニ公證ハ第三ノ人ニ對シテ其效アラシムルカ

否トニ付テハ毫モ關係ナキモノナリト雖モ而モ公證ヲ經サル
ト雖モ双方間ニ其效アリトモハ所有主之ヲ欺隠シテ他
人ニ賣與シ又ハ重テテ抵當典物ト爲シタル者ハ必スシ

モ其罪ナカラルヘカラス
乙説 實ニ公證ハ第三ノ人ニ對シテ其效アラシムルカ
爲メニ行フ所ノ順序ニシテ其双方間ニ其效アルト否トニ
付テハ毫モ關係ナキモノナリト雖モ而モ公證ヲ經サル
ハ權利者ノ懈怠ナレハ爾後他人ノ其不動産上ニ權利ヲ
有シタルニ於テハ必スシモ之ニ承遵セサルヘカラス之
ニ承遵スルハ其懈怠ノ責ニシテ即チ自ラ招ケル所ノ禍
ナリ故ニ其不動産ヲ他人ニ賣與シ又ハ重テテ抵當典物
ト爲シタル者ハ之ヲ罰スルヲ得ス

右二説ハ各其趣旨ヲ異ニスルモノナリ今此問題ヲ決セ

ト欲セハ先ツ本項ノ罪ハ何人ニ對スルモノナリヤノ
點ヲ論決セサルヘカラス余思フニ本項ノ罪ハ前項ノ罪

三ノ罪主又ハ買入
三ノ罪主又ハ買入

三ノ罪主又ハ買入
三ノ罪主又ハ買入

ト同ク第一ノ質取主ニ對スルモノニ非スシテ買主又ハ
 第二ノ質取主ニ對スルモノナリ或ハ曰ハン前項ハ第三
 百九十五條ト互ニ關係ヲ有シ其所有主ニ對スルモノハ
 第三百九十五條ニ依テ之ヲ罰スヘキカ故ニ前項ノ罪ハ
 必ス買主質取主ニ對スルモノナリトイフヲ得ヘシト雖
 モ本頃ハ特立シテ第三百九十五條ノ前項ニ於ケルカ如
 キモノナシ故ニ本頃ノ罪ハ第一ノ質取主ニ對スルコト
 モ亦之レアリト解セサルヘカラスト余一旦此說ニ服從
 セント爲シタリト雖モ退テ考フルニ是レ全ク其當ヲ得
 サルモノナリ謂フ其所以ヲ辨セン
 本頃ニハ云々欺隱シテ他人ニ賣與シトアリ此欺隱トハ
 買主又ハ第二ノ質取主ニ對スルノ語ニシテ第一ノ質取

主ニ對スルノ語ニ非ス故ニ本頃ノ罪ハ第一ノ質取主ニ
 對スルモノトイフヲ得サルナリ又第一ノ質取主ニ對シ
 損害ヲ加ヘタル者ヲ不問ニ付スルノ理ナシトモハ其既
 ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シタルニ非スト雖モ仍ホ
 之ヲ罰セサルヘカラサルヘシ何トナレハ之ヲ欺隱セサ
 ルモ第一ノ質取主ニ損害ヲ加フルコトアレハナリ加之
 第一ノ質取主ニ於テ未ダ公證ヲ經サルニ方テ其不動産
 ナ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シタルノ所爲
 ハ其性質背信ノ罪ニ近クシテ詐欺取財ノ種類ニ非ス是
 レ余カ本頃ノ罪ハ第一ノ質取主ニ對スルモノニ非スト
 云ヒシ所以ナリ其レ然リ故ニ第一ノ質取主ニ於テ未ダ
 公證ヲ經サルニ方リ其不動産ヲ他人ニ賣與シ又ハ重子

テ之ヲ抵當典物ト爲シタル者ハ本條ノ正面ニ當ラサルナリ
 然レトモ右ハ唯解法上ノ論ノミ立法上ヨリ之ヲ觀レハ
 右等ノ者ト雖モ亦之ヲ罰セサルヘカラス管ニ右等ノ者
 ナ罰スヘキノミナラス其既ニ抵當典物ト爲シタルコト
 ナ欺隱セスシテ他人ニ賣與シ又ハ重テ抵當典物ト爲
 シタル者モ亦之ヲ罰セサルヘカラスコトアリ而シテ
 詐欺ノ所爲ヲ以テ第一ノ質取主ノ公證ヲ經ルヲ妨ケタ
 ル者ノ如キハ一層重ク之ヲ罰セサルヘカラス故ニ余ハ
 立法官ニ向テ第三百九十五條以下ニ於テ此等ノ法ヲ定
 メラレンコトヲ希望ス
 ○或問テ曰ク前項ニハ販賣交換シト書シ本條ニハ單ニ

賣與シトアリテ交換ノ事ヲ載セサルハ何ソヤト曰ク賣
 買ト交換トハ唯物件ニ換フルニ金圓ヲ以テスルト物件
 ヲ以テスルノ差アルノミ其他ハ全ク其性質ヲ同フスル
 モノナリ故ニ既ニ賣與ノ事ヲ掲ケハ交換ノ事モ亦之ヲ
 掲ケサルヘカラス然ルニ之レナキハ法ノ闕典トイハサ
 ルヲ得ス而シテ此闕典タル罪ノ有無ニ關スルモノナレ
 ハ立法官ニ於テ速ニ之ヲ増補セラレンコトヲ希望ス

第三百九十四條

前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年
 以下ノ監視ニ付ス

○本條ハ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スヘキ
 旨ヲ定ム

詐欺取財ハ竊盜ト同ク慾情ニ基クモノニシテ殊ニ再犯ノ憂アリ故ニ本條之ヲ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘシト定メタリ

或問テ曰ク何故ニ前數條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ監視ニ付シテ第三百九十六條及ヒ第三百九十七條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ監視ニ付セサル乎ト曰ク第三百九十六條ノ罪ハ受託者借主質取主及ヒ金穀物件ニ付キ委託ヲ受ケタル者ニ限り犯スヘキモノニシテ第三百九十六條ノ罪ハ官署ヨリ財産ヲ差押ヘテレタル者ニ限り犯スヘキモノナリ故ニ如何ニ惡意ヲ逞フスルモ財物ノ受託借用等ヲ爲シ若クハ官署ヨリ其財産ヲ差押ヘタルニ非サレハ犯ス能ハサレハ別ニ之ヲ監視ニ付スルノ要ナキカ故ナリ

第三百九十五條

受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金穀物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

一 本條ノ解

- 二 第一條件ノ解○費消トハ物件ヲ費用シテ消耗シタルトキニ限り私ニ之ヲ處置シタルモ消耗セサルトキハ本條ノ正面ニ當ラサル乎○受寄ノ財物等ヲ費消シタルトキハ必スシモ本條ニ依テ之ヲ處斷スヘキ乎
- 三 第二條件ノ解○本條ニ所謂金穀物件ノ中ニハ同

種ノ物ヲ以テ替ヘ得ヘキ物ヲモ包含スル乎

四 本條後段ノ解○後段ノ規則ハ費消ノ所爲ヲ伴フ
トキニ非サルハ之ヲ適用スヘカラサル乎

五 草案第四百三十八條第二項ヲ回復スヘキノ說

〔一〕○本條ハ佛朗西法ニ所謂背信ノ罪ヲ定ム

凡ソ人ニ物品ヲ委託スルヤ多少其人ニ信ヲ措クモノナ
リ是レ其委託ヲ受ケタル者ハ其物件ヲ看守スルノ責ア
ルニ因テ明カナリ故ニ其委託ヲ受ケタル者ニシテ之ヲ
費消スルハ委託者ニ於テ多少其信用ヲ誤リタルノ過失
アリ又受託者ハ其物件自己ノ手裡ニ在ルカ故ニ之ヲ費
消スルノ念生シ易ク且其之ヲ費消シタルニシテ進テ人
ノ手裡ニ在ル物ヲ取リタルニ非サレハ其害少ナシトス

故ニ本條ノ罪ハ之ヲ前數條ノ罪ニ比スルニ其刑半ハチ
減シタリ

二
分
の
一

本條ノ罪ニハ二箇ノ條件ヲ必要トス曰ク本條ニ明示シ
タル物件ヲ費消シタルコト曰ク其費消シタル物件ハ受
寄ノ財物借用物典物其他委託ヲ受ケタル金穀物件ナル
コト是レナリ

〔二〕○第一條件 費消トハ何ソヤ費用消耗ノ義ナリ凡ソ附
託貸借代理等ノ契約ヲ侵スノ所爲數多アリト雖モ其事
ノ小ニシテ刑法ノ之ニ干涉スヘカラサルモノアリ又其
事ノ大ニシテ刑法ノ之ニ干涉セサルヘカラサルモノア
リ吾カ立法官ニ於テハ受託物借用物等ヲ擅ニ費消シタ
ルトキハ刑法上之ヲ罰セサルヘカラスト爲シ特ニ本條

迄シテ貸主ニ現品ヲ返還スルヲ得ルニ於テハ其罪ナシトハ少ク法理ニ悖戻スルモノニ非スヤ何トナレハ其物件ヲ抵當典物ト爲シタルノ所爲罪ヲサレハ縱ヒ其期日ニ迄シテ之ヲ貸主ニ返還スルコト能ハサルモ仍ホ之ヲ罰スヘカラス又其所爲罪タルヘシトセハ縱ヒ其期日ニ迄シテ之ヲ返還シタリト雖モ之ヲ免カルヘカラサレハナリト曰ク頗ル一理アルニ似タリト雖モ本條ニ所謂費消ナル語ハ以テ能ク此說ヲ防クニ足ル何トナレハ物件ヲ抵當ト爲シ又ハ典物ト爲スハ人ニ所有權ノ分權ヲ與フルモノナリト雖モ而モ之カ期限アリテ其期限前ニ之ヲ取戻ストキハ之ヲ費消シタリトイフヲ得サレハナリ而シテ其期限來ルモ仍ホ之ヲ取戻スヲ得ス遂ニ之ヲ

貸主ニ返還スルヲ得サルニ至リタルトキハ其擅ニ他人ノ物件ヲ處置シタルコト、貸主ニ之ヲ返還スルヲ得サルコト、ノ二者具足スルヲ以テ之ヲ罰スルモノナリ若シ然ラスシテ此等ノ所爲モ亦之ヲ罰セサルヘカラストモハ例ヘハ騎行ノ爲メ借リタル馬匹ヲシテ車ニ駕セシメタルトキノ類モ亦之ヲ罰セサルヘカラサルニ至ルヘシ豈此ノ如キ理アラシヤ或ハ曰フ然ラハ受寄ノ財物ヲ人ニ賣與シタリト雖モ期日マテニ之ヲ取戻シ附託者ニ返還スルニ於テハ其罪ナシトセサルヘカラサルヘシト否ナ受寄ノ財物ヲ人ニ賣與シタルトキハ既ニ附託者ニ之ヲ返還スル能ハサルノ地位ニ至リタルモノニシテ彼ノ抵當典物ト爲シタルモ未ダ附託者ニ返還スルノ地位

ニ至ラサルモノト同一ノ論ニ非サルナリ
或問テ曰ク然ラハ委託セラレタル金穀ヲ費消シタルモ
同質同量ノモノヲ以テ之ヲ補ヒタルトキハ如何ト曰ク
一旦費消シタル以上ハ之ヲ補フモ其益ナシ然レトモ其
金穀タル同種ノ物ヲ以テ替へ得へキモノナルニ於テハ
其期日ニ迄ンテ契約ヲ履行スルヲ得サルトキ始メテ其
罪成立スルモノト解セサルヘカラス猶ホ第二條件ヲ論
スルニ當テ更ニ之ヲ詳説スヘシ

或問テ曰ク受寄物借用物等ヲ毀壞シタル者ハ如何ト或
之ニ答へテ曰ク故意ヲ以テ之ヲ毀棄シタルヤ其罪アリ
ト雖モ本條ノ正面ニ當ラヌ何トナレハ之ヲ毀壞シタル
ハ費消シタルニ非サレハナリ故ニ此ノ如キ所爲アル者

ハ本章第十節ニ定メタル刑ヲ受クルニ過キサルナリト
是ナリ

或問テ曰ク然ラハ受寄物ヲ人ニ贈與シタル者モ亦之ヲ
費消シタリトイフヘカラス乎ト否ナ人ニ贈與スルハ
必ス之カ原因アリ原因アリテ之ヲ贈與スルハ是レ其物
件ヲ或ル用ニ供シタルモノナリ故ニ此場合ニ於テハ費
消ヲ以テ論セサルヘカラスナリ

○二 受寄ノ財物等ヲ費消シタルトキハ必スシモ本條
ニ依テ之ヲ處斷スヘキ乎○受寄ノ財物ヲ費消シタルモ
必スシモ本條ノ正面ニ當ルモノニ非ス之カ例外ニアリ
請フ左ニ之ヲ論セシ

第一 受寄ノ財物借用物等ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ

第三百九十五條

受寄財物
借入
冒認
販賣
交換
例外
(一)

抵當典物ト爲シ而シテ其所爲ノ買主質取主等ニ對スル
 モノナルトキハ第三百九十三條ニ依テ處斷スヘク本條
 ノ正面ニ當ラサルナリ
 或曰ハシ販賣交換シ若クハ抵當典物ト爲スヲ以テ費消
 ト爲ス以上ハ右ノ場合ト雖モ仍ホ本條ニ依テ之ヲ處斷
 スヘキニ非スヤト人アリ之ヲ駁シテ曰ク村田氏刑法註
 釋ニ己レノ物品ト冒認シテ他ニ典賣スル等ノ所爲アル
 時ハ假令受寄ノ財物ト雖モ其所行全ク詐欺ニ出レハ詐
 欺取財ヲ以テ論ストアリ是レ本條ニ所謂其他詐欺ノ所
 爲アル者云々ノ正解ナリ故ニ冒認シテ他ニ典賣シタル
 トキハ第三百九十三條ニ依テ處斷スヘキコト本條ノ明
 示スル所ナリト嗚呼何ソ其レ誤謬ノ甚シキヤ本條ニ所

謂詐欺ノ所爲アル者トハ附託者貸與者等ニ對シテ詐欺
 ノ所爲アル者チイフモノニシテ第三ノ人ニ對スルモノ
 チイフモノニ非ラサルナリ此點ハ後ニ之ニ詳論スヘシ然レトモ余ハ
 受寄物等ヲ冒認シテ他ニ典賣シタル者ヲ本條ニ依テ處
 斷スヘシト爲ス者ニ非ス請フ左ニ之カ理由ヲ辨セン
 第三百九十三條ニハ他人ノ財物ヲ冒認シテ販賣交換シ
 又ハ抵當典物ト爲シタル者ノ罪ヲ定メ而シテ其物件ノ
 犯人ノ手裡ニ在ルトキト否トチ分マス故ニ受寄ノ財物
 借用物ノ類ト雖モ之ヲ冒認シテ販賣交換シ若クハ抵當
 典物ト爲シ而シテ其所爲ノ買主質取主等ニ對スルモノ
 ナルトキハ必スシモ同條ノ罪ヲ免レス然ラハ則チ本條
 ノ所爲ニシテ第三百九十三條ニ該當スルモノハ之ヲ以

テ例外ト爲サ、ルヘカラサルナリ余カ茲ニ其所爲ノ買主ニ對スルモノナルトキト特書シタルモノハ是レ其物件ヲ冒認シテ販賣交換シ若クハ抵當典物ト爲シタルモ買主質取主等ニ於テ正當ニ其物件上ニ權利ヲ行フヲ得テ毫モ損害ヲ被フルヘキモノニ非カルトキハ費消罪ヲ構造スヘキモ冒認罪ヲ構造セサレハナリ或難シテ曰ク本條ノ所爲ニシテ第三百九十三條ニ該當スルモノハ之ヲ例外ト爲スヘシトイフヲ以テ充分ナル理由ト爲スヲ得ハ第三百九十三條ノ所爲ニシテ本條ニ該當スルモノハ之ヲ第三百九十三條ノ例外ト爲スヘシトイフモ亦以テ充分ナル理由ト爲スヲ得ヘキニ非スヤト然リ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ何レヲ以テ例外ト爲

スノ允當ナルヤヲ判定セサルヘカラス余ハ第三百九十三條ヲ以テ本條ニ制限ヲ設ケタルモノト確信ス其理由數多アリ請フ下文ニ於テ之ヲ曰ハン

一 受寄ノ財物ヲ冒認シテ販賣交換シ若クハ抵當典物ト爲シ而シテ其所爲ノ買主質取主等ニ對スルモノナルトキハ何人カ其損害ヲ被フルト爲ス乎買主等ノ其損害ヲ被フルモノナルコトハ一目瞭然復タ一點ノ疑ヲ容レズ然ラハ附託者貸與者等ニ對スル罪ヲ定ムル本條ニ依テ罰セスシテ買主質取主等ニ對スル罪ヲ定ムル第三百九十三條ニ依テ處斷セサルヘカラス是レ其第一理由ナリ

二 本條ノ刑ト第三百九十三條ノ刑トヲ比照スルニ本

條ノ刑其半ハナ輕フス今一所爲ニシテ或ハ重カルヘク
 或ハ輕カルヘキトキハ其重キニ從フコト蓋シ自然ノ順
 序ナリ是レ其第二理由ナリ
 三 爨キニ開說シタル如ク受寄ノ財物借用物等ヲ抵當
 典物ト爲シタリト雖モ期日ニ迄ンテ附託者貸與者等ニ
 返還スルニ於テハ其罪ナシ今冒認シテ之ヲ抵當典物ト
 爲シタルトキ本條ニ依テ之ヲ處斷スヘシト爲ストキハ
 質取主ハ欺瞞セラレタルモ之ヲ罰スル能ハサルニ至ル
 ヘシ豈此ノ如キ理アラシヤ是レ其第三理由ナリ
 四 本條ノ刑詐欺取財ノ刑ヨリ輕キ所以ノモノハ是レ
 附託者貸與者等ニ於テ信用ヲ誤リタルノ過失アルト其
 物件犯人ノ手裡ニ在ルトノ二案ニ由ル然ルニ第三ノ人

冒認ノ
 背信(ト)
 美子(ト)

ニ對シ其物件ヲ冒認シテ販賣交換シ若クハ抵當典物ト
 爲スニ付テハ附託者貸與者等ニ過失アルト否トハ毫モ
 影響ヲ及ホサ、ルハ勿論其物件犯人ノ手裡ニ在ルト否
 トニ因テ別ニ其情ヲ異ニスルノ理アラサルナリ然ルニ
 其刑本條ニ定メタル所ニ過キスト爲スハ決テ罪刑其權
 衡ヲ得タルモノトイフヲ得ス是レ其第四理由ナリ
 五 本條ノ犯人ト委託者貸與者等ト第三百七十七條ニ
 定メタル親屬ナルトキハ其罪ヲ免ス今受寄ノ財物等ヲ
 冒認シテ販賣交換シタリト雖モ仍ホ本條ニ依テ處斷ス
 ヘシトセハ買主等ハ如何ナル損害ヲ被フルモ犯人ト委
 託者等ト親屬ナルニ於テハ之ヲ罰スル能ハサルヘシ豈
 此ノ如キ理アラシヤ是レ其第五理由ナリ

手筆以下を
答へし三三の字を
此の論シタル所以ナリ

右ハ其理由ノ尤モ主タルモノ、ミ既ニ此等ノ理由アル
カ故ニ第三百九十三條ヲ以テ本條ニ制限ヲ設ケタルモ
ノト爲ス乎將タ本條ヲ以テ第三百九十三條ニ制限ヲ設
ケタルモノト爲ス乎之ヲ解スル何レカ能ク允當ナルヤ
ト問ハ、必スシモ第三百九十三條ヲ以テ本條ニ制限ヲ
設ケタルモノナリト答ヘサルヘカラサルヘシ是レ余カ
第二 受寄ノ財物ト雖モ之ヲ竊取シタルトキハ竊盜ヲ
以テ論セサルヘカラス
或曰ク受寄ノ財物ハ受託者ノ手裡ニ在ルモノナリ故ニ
之ヲ竊取スル能ハサルヘシト曰ク否ナ例ヘハ甲乙ニ鎖
鑰ヲ施シタル筆筒ヲ附託シタリ然ルニ乙竊ニ其鎖鑰ヲ

例外(二)

開キ衣類ヲ取リテ之ヲ自己ノ所得ト爲シタルトキノ類
ハ受寄ノ財物ヲ費消シタルニ非ス他人ノ物品ヲ竊取シ
タルモノナリ左ニ其所以ヲ辨セン
凡ソ人ニ物品ヲ附託スルニ全ク其人ヲ信シテ之ヲ附託
スルモノト其人不正ノ事ヲ行フアラソトテ恐レ之ヲ
防クノ方法ヲ施シテ之ヲ附託スルモノトニアリ第一
ノ場合ニ於テハ受託者其忠信ニ背クトキハ隨意ニ其物
件ヲ處置スルヲ得ヘシ故ニ之ヲ費消シタルヤ背信ノ罪
ヲ犯シタルニ止マルト雖モ第二ノ場合ニ於テハ單ニ其
忠信ニ背クノミニテハ受託者未ダ其物件ヲ處置スルヲ
得ス即チ其鎖鑰ヲ開ク等非常ノ事ヲ行ハサルヘカラス
之ヲ要スルニ鎖鑰ノ施シアル物品ハ附託者依然其中ニ

韞藏スル物件ヲ看守スルモノナリ故ニ之ヲ取リタルハ
 即チ人ノ看守スル所ノ物件ヲ竊取シタルニシテ受寄ノ
 財物ヲ費消シタルニ非サルナリ若シ然ラスシテ此ノ如
 キ者モ亦本條ニ依テ處斷スヘシトセハ鎖鑰ヲ開テ物件
 ヲ取出シタリト雖モ之ヲ費消セサリセハ之ヲ罰スル能
 ハサルニ至ルヘシ非理モ亦太甚シカラスヤ故ニ附託者
 ニ於テ受託者ノ竊取ヲ防クノ方法ヲ施シ而シテ受託者
 ニ於テ非常ノ方法ヲ行フニ非サレハ之ヲ取ル能ハサル
 場合ニ於テ之ヲ取リタルトキハ皆ナ竊盜ナリトス
 又二人ニ物件ヲ附託シタル場合ニ於テ其一人竊カコ之
 ヲ取リタルハ竊盜ナリトス何トナレハ相看守セル他ノ
 一人ノ眼ヲ偷ミタルモノナレハナリ

竊取者
 受託者
 附託者
 看守者

付託
 X

或問テ曰ク然ラハ鎖鑰ヲ施シタル箆筒ヲ受寄シタル者
 鎖鑰ヲ開カヌシテ箆筒ノ儘之ヲ費消シタルトキハ如何
 ト曰ク此場合ニ於テハ本條若クハ第三百九十三條ニ依
 テ處斷セサルヘカラス何トナレハ附託者ハ其箆筒ノ儘
 之ヲ費用スルヲ防クノ方法ヲ施シタルモノニ非ス又受
 託者ハ之ヲ費消スルニ付キ別ニ非常ノ方法ヲ用ヒタル
 ニ非ス唯其忠信ニ背キ若クハ冒認シテ販賣交換等ヲ爲
 シタルニ過キサレハナリ世間或ハ箆筒ヲ開キテ其中ノ
 物品ヲ取リタルト箆筒ノ儘費用シタルトノ間ニ此ノ如
 キ區別ヲ設クルヲ以テ奇怪ナリト爲ス者アルヤモ知ル
 人カラスト雖モ是レ決テ怪ムニ足ラサルナリ彼ノ二人
 ニ附託シタル場合ニ於テ一人ニテ之ヲ取リタルトキハ

鎖鑰
 ノニスコカテ
 非ス
 冒認
 販賣
 交換

竊盜ナルモ二人ニテ之ヲ費消シタルトキハ竊盜ニ非ス
シテ費消受寄財物ノ罪ナルト至ク其理ヲ同フスルモノ
ナリ

〔三〕○第二條件 犯人ノ物件ヲ費消シタリト雖モ其物件ダ
ル本條ニ明示シタルモノニ非サルトキハ本條ノ正面ニ
當ラサルナリ本條ニ定メタル物件ヲ分テ四ト爲ス請フ
左ニ之ヲ説カシ

○受寄ノ財物トハ凡百ノ預リ物チイフ故ニ總テ所有主占
有主看守人等ヨリ附託セラレタル物件ヲ包含スルモノ
ナリ又借用物トハ賃銀ヲ拂フノ約アルモノト否トナ問
ハス人ヨリ借用シタル物チイフ然レトモ好事斷弄其他
使用ノ譯ニ因テ消失セサル性質ノ物件ニ限ラサルヘカ

ラス故ニ金圓若クハ穀物ヲ借用シタル者ノ如キハ其目
的ニテ費消セント欲スルニ在レハ之ヲ費消スルモ固ヨ
リ其罪ナシ唯其期限ニ迄ンテ之ヲ返還スルノ義務アル
ノニ又典物トハ質物ニシテ權利ヲ安全ナラシメシカ爲
メ義務者ヨリ差入ル、所ノ物ナリ其他委託ヲ受ケタル
金穀物件トハ買賣贈與交換若クハ届ケ渡シ等ノ爲メニ
委託セラレタル金穀物件即チ代理ノ名義ニテ委託セラ
レタル物件チイフモノナリ故ニ代理契約ニ因リ代理ヲ
委託シタル者ヨリ受取リタル物件ハ勿論其契約ニ因リ
第三ノ人ヨリ代理ヲ委託シタル者ノ爲メニ受取リタル
物件モ亦其中ニ包含スルモノナリ

○或問テ曰ク法律雜誌第三百九號ニ左ノ如キ説ヲ掲ケ

メリ能ク其當ヲ得タルモノ、如何ト

凡ソ物ニ同種ノ物ヲ以テ替へ得可キ物品ト同種ノ物
 ナ以テ替へ得へカラサル物品トノ二種アリ刑法第三
 百九十五條ニ所謂委託ヲ受ケタル金穀物件トハ同種
 ノ物ヲ以テ替へ得可カラサル物品ヲ謂フ何ニ由テ之
 ナ知ル曰該條ニ受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託
 ナ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者トアルニ由テ之
 ナ知レリ夫レ受寄ノ財物トハ民法上ノ附託契約ナリ
 附託契約トハ甲ヨリ乙ニ物品ヲ預ケ乙之ヲ管守シ後
 ニ其儘ニテ返還スルノ契約ヲ謂フ借用物トハ凡ソ物
 ニ耗盡ス可キ物ト耗盡セサル物トノ二種アリ此借用
 物ハ貸借ト恩借トヲ問ハス耗盡セサル物ヲ謂フ何則

法學雜誌
 百九十五條ニ所謂委託
 何ニ由テ之
 ナ知レリ夫レ受寄ノ財物
 附託契約トハ甲ヨリ乙ニ物品
 預ケ乙之ヲ管守シ後
 ニ其儘ニテ返還スルノ契約
 借用物トハ凡ソ物
 ニ耗盡ス可キ物ト耗盡セサル物
 トノ二種アリ此借用
 物ハ貸借ト恩借トヲ問ハス
 耗盡セサル物ヲ謂フ何則

耗盡物ノ貸借ナレハ其物ノ所有權ハ借主ニ移ルヲ以
 テ之ヲ費消スルハ當然ノ事ニシテ刑法上之ヲ罰スヘ
 キ理由ナケレハナリ其貸借トハ甲ヨリ乙ニ質銀ヲ得
 テ定期間物品ヲ貸與フルノ契約ナイヒ其恩借トハ借
 主ノ使用ノ爲メ物品ヲ渡シ借主之ヲ用ヒタル後貸主
 ニ還ス可キ契約ヲ謂フ典物トハ動産不動産ヲ問ハス
 負債主其債ヲ償フノ保證トシテ債主ニ物件ヲ渡ス契
 約ヲ謂フ之ヲ要スルニ受寄ノ財物ト云ヒ借用物ト云
 ヒ典物ト云ヒ皆其物ノ所有權ハ附託者貸主負債主ニ
 アルモノニシテ即チ同種ノ物ヲ以テ替へ得可カラサ
 ル物品ナリトス然則委託ヲ受ケタル金額物件トハ同
 種ノ物ヲ以テ替へ得可カラサル物品ナリト因ヨリ既ニ

明ラカ也何則同種ノ物ヲ以テ替得ヘキ物品ナレハ其物ノ所有權ハ一方ノ契約者ニ移レヒ同種ノ物ヲ以テ替ヘ得可ラサル物品ナレハ其者ノ所有權ハ仍ホ一方ノ契約者ニ移ラサレハナリ受寄ノ財物借用物典物皆所有權ノ他ニ移ラサルモノヲ謂ヒ特リ委託ヲ受ケタル金額物件ニ至リテハ所有權ノ他ニ移ル可キ物ヲモ含蓄セリトハ決シテ謂フ可ラサルノ事ナリ抑同條中ニ在ル所ノ事ハ總テ同一ニ解釋スヘキハ推理上ノ原則ナリトス且ツヤ所有權ノ移リタル物即チ同種ノ物ヲ以テ替ヘ得可キ物ナレハ之ヲ費消シタリ迎決シテ罰ス可キ者ニアラス何則之ヲ費消シタルハ所有權ノ一部ナル處置權ヲ行ヒタルモノナレハ也夫ノ紙幣ノ

若キハ或ハ封緘シ或ハ特別ニ契約スルコト非サルヨリハ皆同種ノ物ヲ以テ替ヘ得可キ物品ナリトス故ニ紙幣ノ委託ヲ受ケ之ヲ費消スルモ決シテ該條ニ依テ罰ス可キ者ニアラス若シ之ヲ罰スヘキ者トセハ譬ヘハ十圓ノ紙幣一葉ノ委託ヲ受ケ之ヲ使用シ五圓ノ紙幣二葉ヲ以テ贈達スルモ亦罰セサル可ラス何則此場合ニ於テ委託ヲ受タル金額ハ即チ十圓ノ紙幣ニシテ已ニ之ヲ費消シタルハナリ豈如斯ノ理アラシヤ
余思フニ委託ヲ受ケタル金額物件ハ其同種ノ物ヲ以テ替ヘ得ヘカラサル物ニ限レリト爲スヲ得ス其同種ノ物ヲ以テ替ヘ得ヘキ物ト否ラサル物トノ間ニハ少シク費消ノ事ニ關シテ差異アリト雖モ何レモ本條ニ所謂委託

手紙
封緘
紙幣
委託
受託
金額
物件
同種
物
替
得
可
ラ
サ
ル
物
品
ナ
レ
ハ
其
者
ノ
所
有
權
ハ
仍
ホ
一
方
ノ
契
約
者
ニ
移
ラ
サ
レ
ハ
ナ
リ
受
寄
ノ
財
物
借
用
物
典
物
皆
所
有
權
ノ
他
ニ
移
ラ
サ
ル
モ
ノ
ヲ
謂
ヒ
特
リ
委
託
ヲ
受
ケ
タ
ル
金
額
物
件
ニ
至
リ
テ
ハ
所
有
權
ノ
他
ニ
移
ル
可
キ
物
ヲ
モ
含
蓄
セ
リ
ト
ハ
決
シ
テ
謂
フ
可
ラ
サ
ル
ノ
事
ナ
リ
抑
同
條
中
ニ
在
ル
所
ノ
事
ハ
總
テ
同
一
ニ
解
釋
ス
ヘ
キ
ハ
推
理
上
ノ
原
則
ナ
リ
ト
ス
且
ツ
ヤ
所
有
權
ノ
移
リ
タ
ル
物
即
チ
同
種
ノ
物
ヲ
以
テ
替
ヘ
得
可
キ
物
ナ
レ
ハ
之
ヲ
費
消
シ
タ
リ
迎
決
シ
テ
罰
ス
可
キ
者
ニ
ア
ラ
ス
何
則
之
ヲ
費
消
シ
タ
ル
ハ
所
有
權
ノ
一
部
ナ
ル
處
置
權
ヲ
行
ヒ
タ
ル
モ
ノ
ナ
レ
ハ
也
夫
ノ
紙
幣
ノ

ヲ騙取スルヲ得ス故ニ未タ其物件ヲ受取ラサル前ニ於
 テ人ヲ欺罔シ若クハ恐喝シ因テ其物件ヲ渡サシムルヲ
 イフト余思フニ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ不正ニ自己ノ
 所得ト爲サンカ爲メ物件ヲ渡サシメタルトキハ其附託
 ノ名義ヲ以テスルト貸借ノ名義ヲ以テスルトニ論ナク
 純粹ノ詐欺取財ナリ故ニ本條後段ハ甲說ノ如ク物件ヲ
 受取リタル後ニ於テ騙取ノ所爲ヲ行ヒタルモノニ限ラ
 サルヘカラス加之若シ乙說ニ從フトキハ物件ヲ受取リ
 タル後ニ於テ騙取ノ所爲ヲ行ヒタル者ヲ嚴罰スル能ハ
 サルヘシ例ヘハ受寄ノ財物ヲ費消シテ附託者ヲ欺キ強
 盜ニ奪ハレタリトイヒ又ハ一旦借用シタル後若シ之ヲ
 與ヘサルニ於テハ其罪ヲ告發スヘシト恐喝シテ之ヲ取

原案ニ依リテ
 例ハ前段ニ於テ
 騙取ノ所爲ヲ行
 ヒタル者ヲ嚴罰
 スル能ハサルヘ
 シ

リタル者ノ類ト雖モ詐欺取財ヲ以テ論スルヲ得サルニ
 至ルヘシ故ニ余ハ甲說ヲ是トスル者ナリ
 拐帶トハ何ッヤ高木氏刑義解曰ク拐帶ハ持遁ケヲ云フト
 他ノ論者曰ク清律ノ註ニ因事遇便而携取人財物曰拐帶
 トアリ故ニ其物件ヲ受クルノ時ニ於テ之ヲ取ルノ念慮
 アル者ナイフト其清律ノ註ヲ解スル當レルヤ否ヲ知ラ
 スト雖モ姑ク之ヲ闕キ余ハ高木氏ノ說ニ從ヒ而シテ其
 惡念ノ物件ヲ受クル前ニ在ルト其後ニ生シタルトテ問
 フヘカラストス何トナレハ受寄ノ財物借用物等ヲ持遁
 ケスルヤ其念慮ノ何時ニ發シタルヲ問ハス之ヲ罰スヘ
 ク不問ニ付スルノ理アラサレハナリ
 或ハ曰ハン其惡念ノ物件ヲ受取リタル後ニ發生シタル

ニ於テハ費消罪ヲ以テ論スヘシ故ニ強チ之ヲ不問ニ付
 スルモノニ非スト實ニ拐帶者ニ於テ之ヲ費消シタルト
 キハ之ヲ罰スヘシト雖モ若シ之ヲ費消セサルトキハ全
 ク之ヲ罰スルヲ得サルヘシ故ニ拐帶トハ其念慮ノ發生
 シタル時ノ前後ヲ論スヘカラサルナリ
 其他詐欺ノ所爲アルトハ例ヘハ幼者ノ知慮淺薄若クハ
 人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其受寄物ヲ取り又ハ物件
 ヲ返還スルニ臨テ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽リタル
 ノ類チイフ
 或曰ク物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽ルコトハ賣買交換ノ
 場合ニ限レルコトハ第三百九十二條ニ依テ明カナリ故
 ニ之ヲ本條ノ場合ニ適用スル能ハサルヘシト非ナリ第

三百九十二條ニ於テ賣買交換ノ二者ニ限リタルモノハ
 同條ニ於テ開說シタル如ク右二箇ノ場合ニ非サレハ事
 後ノ所爲ヲ以テ人ヲ欺クコトナシト爲シタルカ故ナリ
 然レトモ受寄物等ヲ返還スルニ當テ其物質ヲ變シ若ク
 ハ分量ヲ偽ルコトハ實際往々見ル所ニシテ而モ其事ノ
 詐欺ナルハ一點ノ疑ヲ容レサルモノナリ故ニ第三百九
 十二條ニ制限アルモ之ヲ本條ニ適用シテ敢テ妨ケアラ
 サルナリ

村田氏ハ受寄物借用物等ヲ冒認シテ他ニ典賣シタル者
 モ亦詐欺ノ所爲アル者ナリト說キタルコト及ヒ其說ノ
 不當ナルコトハ曩ニ之ヲ示シタリ因テ茲ニ其不當ナル
 理由ヲ開說スヘシ抑本條ニ若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所

爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ストアルハ如何ナル物ニ就テ是等ノ所爲アルヲイヒタルモノナル乎ト問ハ、余ハ其受寄ノ財物借用物典物其他委託ヲ受ケタル金穀物件ニ就テイヒタルモノナリト答ヘン何トナレハ本條ハ附託者貸與者質入主等ニ對スル罪ヲ定メタルモノニシテ第三ノ人ニ對スル罪ヲ定メタルモノニ非サレハナリ且本條ト草案第四百三十八條トヲ比照スルトキハ此點愈々明了ナラン草案第四百三十八條ニ曰ク賃借恩借ノ物品又ハ典物受寄物其他委託ヲ受ケタル金額物品ヲ藏匿拐帶シ若クハ費消シタル者ハ云々ト而シテ本條ハ之ヲ改メテ費消ト拐帶トヲ區別シタルモノナレハ其拐帶スル所ノ物件ハ受寄物等ナルコト明カナリ然ルニ拐帶

ノミ受寄物等ニ係リ騙取其他詐欺ノ所爲ハ他ノ物件ニ係ルト解スルカ如キハ蓋シ理外ニ逸スルモノナラン歟」
 ○或問テ曰ク本條後段ハ費消ノ所爲ヲ伴フトキニ非サレハ之ヲ適用スヘカラス乎ト曰ク費消ノ所爲ヲ伴フト否トチ問ハス騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アルトキハ其罪成立スルモノナリ故ニ騙取拐帶等ヲ爲ストキハ縱ヒ之ヲ費消セスシテ自己ノ所有ト爲スモ詐欺取財ノ罪ヲ免カルヘカラス之ヲ要スルニ本條後段ハ受寄物借用物典物ノ如ク自己ノ手裡ニ在ル物件ト雖モ詐欺ニ因リ不正ニ之ヲ自己ノ所得ト爲ストキハ則チ之ヲ罰スル旨ヲ定ムルモノナリ

○本條ノ釋義ヲ終ルニ臨テ一言スヘキコトアリ何ソヤ

草案第四百三十八條第二項ノ規則ヲ回復スヘキコト是レナリ該項ニ曰ク若シ水火震災其他非常ノ變ニ際シ委託ヲ受ケタル物品ニ係ル時ハ一等ヲ加フト實ニ水火震災其他非常ノ變ニ際シテハ遽促勿劇其勢急ニシテ蓋シ眼中一ノ不善人ナク固ヨリ人ヲ擇ムニ暇アラサルナリ故ニ之カ物品ノ委託ヲ受ケタル者ハ善ク之ヲ保濟シテ敢テ惡意ナカルヘシ然ルニ情獵夫ノ窮鳥ニ及ハス豕々其信ニ背ク者ハ法律宜ク之ヲ嚴罰シテ以テ遭難者ヲ保護セサルヘカラス其レ然リ故ニ余ハ立法官ニ向テ速ニ右ノ規則ヲ回復セラレシコトヲ希望ス

○佛刑法第四百七條 何人ニ限ラス己レニ委託セラレタル署名ノ白紙ヲ妄用シ惡意ヲ以テ其上ニ一箇ノ

義務又ハ義務ノ免除其他總テ署名者ノ身體或ハ財產ヲ害スルコトアルヘキ證書ヲ記シタル者ハ第四百五條ニ定メタル刑ニ處セラレヘシ
若シ署名ノ白紙其者ニ委託セラレサル場合ニ於テハ其者ハ偽造者トシテ訴ヘラレ且其刑ニ處セラレヘシ
〔刑〕一四五、
至一五五、

同第四百八條 五月十八日改正 何人ニ限ラス物品金

圓商品切手受領證書其他總テ義務或ハ義務免除ヲ包含シ或ハ之ヲ作爲スル文書ヲ返還シ又ハ差出スヘキノ責任又ハ其定リタル使用又ハ用方ヲ爲スヘキノ責任ヲ以テ賃借附託代理質入使用賃借ノ名義ヲ以テ己レニ交付セラレ又ハ雇賃ノ有無ヲ問ハス

製作ノ爲メ己レニ交付セラレタル者其所有者占有者又ハ保有者ノ損害ニ於テ之ヲ竊取シ又ハ費消シタルトキハ第四百六條ニ定メタル刑ニ處セラレヘシ

若シ公務人裁判所附ノ役員又ハ雇人雇賃ヲ受ケテ労働スル者生徒書役店者職工雇工工作受業者ノ其主長ノ損害ニ於テ前項ニ記シ且罰スル所ノ背信ノ罪ヲ犯シタルトキハ其刑ハ懲役ノ刑タルヘシ〔刑〕七、以下、二、八、以下、三、四、以下、三、六、四、七、

但公ケノ預リ所ニ於テ行ヒタル金圓物品又ハ證據物ノ竊取及ヒ搬取ニ關シテ第二百五十四條第二百五十五條第二百五十六條ニ記シタル所ト相觸ル、

コトナカルヘシ〔刑〕七、九、二、以下、三、八、四、〇、

第三百九十六條

自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス〔刑〕三、七、一、

○本條モ亦一種ノ背信罪ヲ定ム

自己ノ所有物ト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ハ本人擅ニ之ヲ處置スルヲ得ス然ルニ之ヲ藏匿シ若クハ脱漏スルハ公權ヲ蔑如スルモノニシテ其性質恰モ人ヨリ附託セラレタル物件ヲ藏匿脱漏スルニ似タリ然レトモ其物件タル元ト自己ノ所有ニ係リ且之ヲ藏匿脱漏スルモ直

接ニ人ニ損害ヲ加フルモノニ非サレハ其刑僅ニ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ止メ而シテ家資分散ノ際此罪ヲ犯ストキハ直接ニ權利者ヲ害スルヲ以テ第三百八十八條ノ例ニ照シテ之ヲ處斷スヘシト定メタリ

本條但書ニ付テハ二箇ノ注意ヲ要スルモノアリ即チ第三百八十八條ニ於テ開說シタル如ク財產ヲ藏匿脱漏スルモ罪ト爲ラサルコトアリ然レトモ若シ其物件官署ノ差押ニ係ルトキハ第三百八十八條ニ依テ之ヲ處斷スルヲ得サルモ必スシモ本條ノ刑ヲ免カルヘガラサルコト及ヒ家資分散ノ際財產ヲ藏匿脱漏シタル罪ハ其未遂犯ヲ罰セスト雖モ本條ノ罪ハ其未遂犯ヲ罰スルカ故ニ家資分散ノ際此罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ仍ホ

本條ニ依テ之ヲ處斷スヘキコト是レナリ

○佛刑法第四百條三項 第三百七十一條
全交ヲ掲ク

第三百九十七條

此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○本條ハ詐欺取財及ヒ受寄ノ財物ニ關スル罪ハ未遂犯ヲ罰スヘキ旨ヲ定ム

本條ハ別ニ解釋ヲ要セスト雖モ此節ノ罪ハ之カ既遂犯ト未遂犯トノ區別及ヒ未遂犯ト豫備ノ所爲トノ區別ヲ畫定スルコト頗ル難シ故ニ左ニ條ヲ摘ンテ少ク此點ヲ論スヘシ但第三百九十條ノ罪ニ付テハ業ニ既ニ其條下ニ之ヲ開說シタレハ茲ニ復說ノ勞ヲ取ラス

第三百九十一條 本條ノ罪モ亦第三百九十條ノ罪ト同ク犯人ニ於テ自ラ進テ他人ノ財物等ヲ取ルモノニ非ス被害者ヲシテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシムルモノナレハ幼者若クハ精神錯亂シタル者ニ對シ之ヲシテ財物等ヲ授與セシメンカ爲メニ或ル所爲ヲ行ヒタリト雖モ未タ必スシモ其罪ノ施行ニ着手シタリト爲スヲ得ス

幼者若クハ精神錯亂シタル者ニ於テ其財物等ヲ授與セント爲シタルトキ始メテ其所爲ヲ以テ施行ノ端緒ナリ

ト爲スヘキナリ或ハ難シテ曰ハン第百十二條ノ釋義ニハ毒物ヲ飲食ニ混和シテ之ヲ其殺サント欲スル者ノ前ニ供シタルトキハ既ニ其罪ノ施行ニ着手シタルモノナリト述ヘ本條ニ於テ既ニ人ヲシテ財物等ヲ授與セシメ

ンカ爲メニ或ル所爲ヲ行ヒタリト雖モ其對手人ニ於テ之ヲ授與セント爲サ、ル間ハ其罪ノ施行ニ着手シタリト爲ステ得スト説クハ前後撞着スルモノニ非スシテ何ツヤト曰ク否ナ毒殺ノ場合ト本條ノ場合トハ然ク一概ニ論スヘカラサルナリ抑毒殺トハ人ヲシテ死ニ至ラシムルノ效能アル毒物ヲ施用シテ人ヲ殺スモノニシテ而シテ其毒物ノ人ヲ死ニ致スノ效能アルト否トハ其物ニ就テ鑑定スルヲ得ルモノナリ故ニ一旦之ヲ飲食物ニ混和シテ之ヲ其殺サント欲スル者ノ前ニ供シタルヤ其者之ヲ食スルトキハ解毒物ノ力ヲ假ルニ非サレハ必ス其生命ヲ失フモノナリ之ニ反シ本條ノ場合ニ於テ幼者等ヲシテ財物ヲ授與セシ

メソカ爲メコ行ヒタル所爲ハ其幼者等ニ於テ財物ヲ授
 與セント爲シタルトキ之ヲ顧ルニ非サレハ其人ヲシテ
 財物ヲ授與セシムルノ效能アルモノナリヤ否判然セス
 是レ幼者ニモ自ラ知慮ニ淺深アリ精神錯亂シタル者ニ
 モ亦其疾病ニ輕重アレハ一所爲ノ甲ニ對シテ效アルモ
 乙ニ對シテ效ナキコトアレハナリ此ノ如ク彼此全ク其
 趣ヲ異ニスルカ故ニ前後其説ノ同シカラサルモ決テ之
 ヲ撞着シテグリトイフヘカラス然レトモ余ハ幼者若クハ
 精神錯亂シタル者ニ於テ財物等ヲ授與セント爲シタル
 トキ其罪ノ施行ニ着手シタルモノナリト爲スニアラス
 何トナレハ其決心ハ被害者ノ爲ス所ニシテ犯人ノ爲ス
 所ニ非サレハ犯人此時ニ於テ其罪ノ施行ニ着手シタリ

トイフ能ハサレハナリ只被害者ニ於テ決心シタルトキ
 ニ非サレハ其所爲ヲ以テ施行ノ端緒ト爲ス能ハストイ
 フハミ之ヲ詳説スレハ幼者又ハ精神錯亂シタル者ヲシ
 テ財物等ヲ授與セシメンカ爲メ或ル所爲ヲ行ヒタリト
 雖モ其被害者ヲシテ決心セシムルノ效ヲ生シタルニ非
 サレハ之ヲ以テ其罪ノ施行ニ着手シタリトイフヲ得サ
 ルナリ
 右ハ第三百九十條ニ於テ開説シタル所ト全ク其趣意ヲ
 同フスルモ同條ニ於テハ少ク尽サル所アルヲ以テ更
 ニ茲ニ之ヲ論シタルナリ
 第三百九十二條 本條ノ罪ハ物質ヲ變シ若クハ分量ヲ
 偽ルヲ以テ其施行ノ端緒ト爲スヘキ乎將々之ヲ交付ス

ルノ所爲ヲ行ヒタルトキ始メテ其罪ノ施行ニ着手シタ
 リト爲スヘキ乎余以爲ラク物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽
 ルコトハ本條ノ罪ヲ構造スルノ一元素ナルカ故ニ其事
 ヲ行フヤ既ニ其罪ノ施行ニ着手シタルモノナルニ似タ
 リト雖モ而モ此所爲タル交付ノ所爲ト合スルトキハ罪
 ノ本體ト爲ルモ特立スルトキハ豫備ノ所爲タルニ過サ
 ルモノニシテ恰モ文書偽造ノ罪ニ於テ偽造ハ其罪ヲ構
 造スルノ一元素タルモ行使ノ所爲ナキトキハ一ノ豫備
 ノ所爲ニ過キサルト同一ナリ故ニ交付ノ所爲ニ着手シ
 タルトキ始メテ其罪ノ施行ニ着手シタリトイフヘシ然
 レトモ分量ヲ偽ルコトハ交付ノ際ニ之ヲ行フコト徃々
 之レアリ此場合ニ於テハ度量ノ所爲即チ交付ノ所爲ナ

レハ其度量ニ着手シタルヤ既ニ其罪ノ施行ニ着手シタ
 リト爲スヘシ

第三百九十三條 本條モ亦前條ト同ク冒認シ若クハ欺
 隱シタルヲ以テ其罪ノ施行ニ着手シタリト爲スヲ得サ
 ルヤ明カナリ然レトモ販賣交換シ若クハ抵當典物ト爲
 スノ所爲ハ何時ニ始マル乎ノ點例ヘハ之ヲ販賣交換シ
 若クハ抵當典物ト爲サンコトヲ人ニ謀リタルトキ既ニ
 其所爲ニ着手シタリト爲スヘキ乎將テ買主質取主等ニ
 於テ未タ契約ヲ爲サルモ既ニ之ヲ買ヒ若クハ質ニ取
 ラント承諾シタルトキ其所爲ニ着手シタリト爲スヘキ
 乎ノ點判然タラス余思フニ本條ノ罪モ亦第三百九十條
 ト同ク不正ニ買主質取主等ノ財物若クハ證書類ヲ取ラ

トトスルモノナレハ對手人ヲシテ其意ヲ決セシメタル
トキニ非サレハ其販賣交換等ノ所爲ヲ以テ罪ノ施行ノ
端緒ナリト爲スヘカラストス

第三百九十五條 費消罪ハ實際之カ未遂犯ト稱スヘキ
モノ甚ダ稀ナラン何トナレハ費消ノ罪ハ費用消耗シタ
ルニ成ルモノニシテ而シテ費消ハ瞬間ノ所爲ニシテ
繼續スルモノニ非サレハナリ然レトモ例ヘハ人ニ受寄
物等ヲ増與セントシ其途ニ於テ偶々附託者ノ爲メニ之
ヲ妨遏セラレタルノ類ハ未遂犯ヲ以テ論スヘキナリ故
ニ費消ノ所爲ニ着手シ未ダ全ク消耗セサル前ニ犯人意
外ノ障礙ニ因リ其事ヲ果サ、ルトキヲ以テ未遂犯ト爲
スヘキナリ

或問テ曰ク受寄物等ヲ人ニ販賣スルノ契約ヲ結ヒ未ダ
其物品ヲ引渡サ、ルニ方リ犯人意外ノ障礙ニ因リ其事
ヲ遏止セラレタルトキハ如何ト曰ク冒認シタルトキハ
既ニ冒認罪ヲ遂ケタルモノナリト雖モ若シ然ラサルト
キハ費消罪ノ未遂犯ヲ以テ論セサルヘカラスト何トナレ
ハ既ニ費消ノ所爲ニ着手シ未ダ之ヲ費耗セサルモノナ
レハナリ

第三百九十六條 本條モ亦藏匿脱漏ノ所爲ニ着手シタ
ルトキ其施行ニ着手シタルモノトス故ニ藏匿脱漏セン
カ爲メ私カニ其財物ヲ持出サントスル際人ノ發覺スル
所ト爲リ遂ニ其事ヲ果サ、ルノ類ハ未遂犯トシテ罰ス
ヘキナリ

右ハ唯其大要ヲ説キタルノミ猶ホ實際上之カ區別ノ判
然タラサルモノアルヘシト雖モ執法官此綱領ヲ標準ト
爲シ慎テ事ヲ執ルアラハ庶幾クハ無率ヲ罪シ不經ニ失
スルノ憂ナカラシ

第三百九十八條

此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ
掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

○本條ハ第三百七十七條ノ規則ハ本節ニモ亦之ヲ適用
スヘキ旨ヲ定ム

此節ニ記載シタル罪モ亦財産ニ對スルモノナリ故ニ特
ニ本條ノ規則ヲ設ケタリ其趣意ハ同條ニ於テ開説シタ
ル所ニ同シ故ニ茲ニ贅セズ然レトモ本條ニ付テハ少ク

注意ヲ要スルモノアリ即チ冒認シテ販賣交換シ若クハ
抵當典物ト爲シタルトキ犯人其物主ノ爲メニハ第三百
七十七條ニ掲ケタル親屬ナルモ買主等ノ爲メニハ其親
屬ニ非サルトキ又ハ之ニ反シ買主等ノ爲メニハ其親屬
ナルモ所有主ノ爲メニハ其親屬ニ非サルトキノ類ハ如
何スヘキ乎ノ點是レナリ甲曰ク第三百九十三條ノ罪ハ
主トシテ買主等ニ對スルモノナリ故ニ犯人ト買主等ト
第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ナルトキハ其罪ヲ論ス
ヘカラサルナリト乙曰ク該條ノ罪ハ主トシテ買主等ニ
對スルモノナリト雖モ而モ所有主ニ其害ヲ加フルコト
アリ故ニ所有主ニ害ヲ加フル場合ニ於テ之ト親屬ノ關
係ナカツセハ縱ヒ買主等ト親屬ナリト雖モ其罪ヲ不問

ニ付スヘカラスト余以爲ラク甲說可ナリ請フ左ニ其所
以チ辨セシ

抑第三百九十三條ノ罪ハ同條ニ於テ開說シタル如ク買
主等ニ對スルモノナリ之ヲ詳說スレハ買主等ノ財物ヲ
詐取シタルモノニシテ所有主ノ財物ヲ詐取シタルモノ
ニ非サルナリ故ニ買主等ト親屬ナルトキハ決テ之ヲ罰
スヘカラスト乙者ノ說ノ如ク或ハ所有主亦之カ爲メニ損
害ヲ被フルコトアルヘシト雖モ是レ唯間接ニ受クル所
ニシテ直接ニ受クル所ニ非ス即チ純粹ナル民事ニ屬ス
ルモノニシテ刑事ニ屬スルモノニ非サルナリ是レ犯人
ト所有主トノ關係ハ之ヲ顧慮スルニ及ハサル所以ナリ
又本條ノ規則ハ之ヲ第三百九十六條ニ適用スル能ハサ

ルヘシ何トナレハ該條ノ規則ハ官ニ對シテ其忠信ニ背
クモノニシテ而シテ他ニ直接ナル被害者ナキモノナレ
ハナリ

或問テ曰ク本條ノ規則ハ能ク其當ヲ得タル乎ト曰ク此
點ハ輕シク之ヲ斷了スル能ハスト雖モ余ハ竊ニ其理由
ニ乏キチ信スルナリ蓋シ竊盜ノ場合ニ於テハ第三百七
十七條ヲ以テスルニ非サレハ却テ一家ヲ擾亂スルニ至
ルノ憂アルカ故ニ敢テ問然スヘキニ非スト雖モ詐欺取
財ハ大ニ之ニ異ナリ迺チ欺罔恐喝等不正ノ計策ヲ施シ
テ人ノ財物ヲ取ルモノニシテ受寄ノ財物ニ關スル罪ハ
明カニ契約ヲ犯スモノナレハ縱ヒ第三百七十七條ニ記
載シタル親屬ニ係ルト雖モ充分ニ之ヲ罰シテ敢テ妨ケ

ナカルヘキナリ然レトモ亦決テ一點ノ汚醜ナシトイフ
ニ非ス唯之ヲ盜罪ノ場合ニ比方スルニ之ヲ罰スルノ弊
少クシテ之ヲ免スルノ弊多キヲ覺ユルノミ蓋シ本條ハ
之ヲ削除スルノ平穩ナルニ若カサル也歟

或問テ曰ク第三百九十條第二項ニ因テ官私ノ文書ヲ偽
造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キ
ニ從テ處斷ストアリ右ハ其目的ト爲ス所第三百七十七
條ニ記載シタル親屬ノ財物ヲ騙取スルニ在ルト否トテ
問ハス偽造ノ各本條ニ照シテ處斷スルノ謂乎ト曰ク此
點ニ付テハ甲乙丙三說アリ左ニ之ヲ掲ケン

○甲說 官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタルト雖モ
其目的ト爲ス所第三百七十七條ニ記載シタル親屬ノ財

物ヲ騙取スルニ在リテ而シテ此目的ヲ達センカ爲メニ
行使シタルニ過キサルトキハ之ヲ罰スルノ要ナシ何ト
ナレハ害ノ因テ生シ得ヘカラサルモノナレハナリ

○乙說 甲說ノ如ク一概ニ論スルヲ得ス若シ其偽造又ハ
變造シタル所ノ文書第三百七十七條ニ記載シタル親屬
ノ義務ヲ證スルニ過キサルトキハ到底其親屬ニ財產上
ノ害ヲ加フルノ外他ニ効果ナキモノナレハ之ヲ罰スル
ノ要ナカルヘシト雖モ若シ其他ノ文書ナルトキハ詐欺
取財ノ罪ハ本條ニ依テ之ヲ免スヘキモ偽造變造ノ罪ハ
決テ之ヲ不問ニ付スヘカラサルナリ

○丙說 詐欺取財ノ罪ハ私益ニ關スルモノニシテ官私ノ
文書ヲ偽造變造スル罪ハ公益ニ關スルモノナリ是レ一

第三百九十八條

ハ第二編ニ之ヲ定メ一ハ第三編ニ之ヲ定メタルニ因テ明カナリ今私益ニ關スル罪ハ親屬タルノ故ヲ以テ之ヲ免スルコトアルヘキモ公益ニ關スル罪ハ社會全體之カ被害者タリ豈一片親屬タルノ故ヲ以テ之ヲ免スルコトアルヘケンヤ故ニ官私ノ文書ヲ偽造變造シタル者ハ其文書ノ性質如何ニ拘ハラズ必スシモ其刑ヲ免カルヘカラサルナリ

余以爲ラク官文書中之ヲ偽造變造シタルノミニテ既ニ罪ヲ成シ行使ノ一條件ヲ具備スルヲ必要ト爲サ、ルモノヲ偽造變造シタル者ハ未ダ詐欺取財ノ用ニ供セサル前ニ於テ既ニ其罪アルカ故ニ本條ニ依リ詐欺取財ノ罪ヲ免スヘキ場合ト雖モ仍ホ之ヲ免スル能ハサルヤ固ヨ

リ半點ノ疑ヲ容レスト雖モ行使ヲ以テ罪ヲ構造スルモノニ至テハ之ヲ解クコト頗ル困難ナリ何トナレハ其他人ニ害ヲ加ヘサルノ點ヨリ觀察ヲ下ストキハ甲説是ナルカ如ク其公益ニ關スルモノナルノ點ヨリ觀察ヲ下ストキハ丙説正キカ如ク兩端交錯容易ニ其當否ヲ辨スヘカラサレハナリ然レトモ畢竟詐僞罪ニ必要ナル損害ノ一元素ヲ具備スルヤ否ノ一點ヲ論決セハ自ラ朝陽ノ雪霜ニ歸セン

詐僞罪ニ必要ナル損害トハ曩ニ文書偽造ノ一般ノ性質ヲ論スルニ方リ開示シタル如ク所謂公害ナリ而シテ此公害タル直接ニ罪ニ因テ生スルト間接ニ因テ生スルトヲ問ハサルモノナリ今詐欺取財ヲ爲スニ付キ官私ノ文

書ヲ偽造變造シタルトキハ必スシモ其公害アリト爲ス
 乎蓋シ被害者ノ義務ヲ證スル所ノモノニ非スシテ被害
 者ヨリ財物ヲ授受セシムルノ代償ト爲ルヘキ文書ヲ偽
 造シテ行使シタルトキハ直接ニ公益ヲ害スルモノナリ
 例ヘハ公債證書又ハ爲替手形等ヲ偽造シテ之ヲ賣リタ
 ルトキノ類ナリ故ニ此場合ニ於テハ犯人ト被害者トノ
 間ニ第三百七十七條ニ記載シタル親屬ノ關係アリト雖
 モ決テ詐偽ノ刑ヲ免カルヘカラサルナリ官文書ヲ偽造
 變造シ之ヲ用ヒテ人ヲ恐喝シタル者ノ如キ亦同シ然レ
 トモ其證書タル被害者ノ義務ヲ證スルニ止マルモノナ
 ルトキハ直接ニ公益ヲ害スルモノニ非ス故ニ此場合ニ
 於テハ先ツ被害者ハ犯人ト親屬ナルトキト雖モ仍ホ損

害ヲ受クルモノナリヤ否ヲ討索セサルヘカラス抑犯人
 ト被害者ト親屬ナルトキハ法律其刑ヲ免スルト雖モ而
 モ之ヲ以テ損害ヲ生セサルモノト爲シタルニ非ス其損
 害ヲ生シタルコトハ被害者ニ民事ノ訴權ヲ生スルニ因
 テ知ルヘキナリ然ラハ其損害タル故意ヲ以テ加ヘタル
 モノナル乎將タ過失ニ因テ加ヘタルモノナル乎ト問ハ
 、必スシモ故意ヲ以テシタルモノト答ヘサルヘカラス
 果テ此ノ如クンハ是レ不正ニ人ヲ害シタルモノニシテ
 社會之カ爲メニ損害ヲ被アリタルヤ明カナリ故ニ特別
 ノ理由アリテ詐欺取財ノ刑ヲ免スルモ文書偽造ノ罪ハ
 必ス之ヲ罰セサルヘカラス故ニ余ハ兩說ニ左袒スル者
 ナリ

○ 附言

草案ニ於テハ船長又ハ運轉手自己ノ利ヲ圖リテ擅ニ其委託セラレタル船舶ヲ賣却シ又ハ藏匿シタル者ヲ重ク罰シ又製造所ノ職工雇人自己ノ利ヲ圖リテ其製造ノ秘訣ヲ他人ニ漏洩シタルヲ以テ一ノ背信罪ト爲シタリ然ルニ右ノ二則ヲ削除シタルハ果テ如何ナル理由ニ基ク乎今左ニ其全文ヲ掲ケ然ル後之ヲ辨ゼン

第四百四十條 船長又ハ運轉手自己ノ利ヲ圖リテ擅ニ其委託セラレタル船舶ヲ賣却又ハ藏匿シテ所有主ノ損害ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百四十一條 製造所ノ職工雇人自己ノ利ヲ圖リテ其製造ノ秘訣ヲ他人ニ漏洩シテ製造主ノ損害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

右第四百十條ハ唯費消罪ノ刑ヲ加重シタルモノニ過キス故ニ之ヲ削除シタルモ敢テ其罪ヲ不問ニ付スルニ非ス唯之ヲ嚴罰スル能ハサルノミ然レトモ第四百十一條ハ一種ノ背信罪ヲ定メタルモノナレハ之ヲ削除シタル以上ハ今日ニ在テ同條ノ所爲ヲ行フ者アルモ之ヲ罰スルヲ得サルナリ

船長運轉手ノ其委託サレタル船舶ヲ賣却又ハ藏匿スルハ其物件ノ價貴キト之ヲ行フ易キトニ因リ加重ノ刑

ナ科スル固ヨリ至當ナルヘキヲ以テ余ハ無論第四百
 十條ヲ回復セラレシコトヲ希望スト雖モ此レ唯刑ノ
 輕重ニ關スルモノナレハ之ヲ以テ法ノ一大闕典ト爲
 スニ足ラズ然レトモ第四百十一條ヲ削除シタルハ豈
 啻白圭ノ玷タルノミナラン哉
 抑智識交換ト技術傳習ハ邦國ノ開明ヲ長スルニ關ク
 ヘカラサルモノナリ故ニ人製造ノ秘訣ヲ傳播スルモ
 更ニ他ヲ害スルコトナクンハ固ヨリ以テ法律ノ之ヲ
 掣スルヲ要セサルコトナリト雖モ夫ノ職工雇人等專
 ラ自己ノ利ヲ圖リテ其製造ノ秘訣ヲ他人ニ漏洩スル
 者ハ忠信ニ背キテ不正ニ己レヲ利スルモノナレハ法
 律必スシモ之ヲ罰セサルヘカラス然ルニ立法官ハ果

テ何ノ理由アリテ之ヲ削除セラレタル乎余ハ速ニ該
 條ヲ回復セラレシコトヲ希望スル者ナリ
 或問テ曰ク佛朗西刑法第四百九條ニ曰ク何人ニ限ラ
 ス裁判上ノ爭訟ニ於テ或ル證券證據物又ハ覺書ヲ差
 出シタル後如何ナル方法ヲ問ハス之ヲ竊取シタル者
 ハ二十五「フランク」以上三百「フランク」以下ノ罰金ニ處
 セラルヘシト然ルニ吾カ刑法ニハ此所爲ヲ罰スルノ
 正條ナシ是レ法ノ闕典ニ非サル乎ト曰ク佛朗西刑法
 第四百九條ハ訴訟ニ良意ヲ維持セシムルニ適當ナル
 モノニシテ其所爲タル之ヲ罪ト爲スニ充分ナル性質
 ヲ具フルモノナリ然レトモ佛法ノ之ヲ背信罪ノ一種
 ト爲シタルハ恐ラクハ其當ヲ失セン何トナレハ其情

輕キモ之カ性質ヨリ論スルトキハ盜罪ノ一種タル明
カナレハナリ故ニ余ハ此法ヲ取テ吾カ刑法ニ設ケ尙
ホ之ヲ盜罪ノ部ニ班セラレシコトヲ希望ス

第六節 贓物ニ關スル罪

○本節凡テ三條贓物ニ關スル罪ヲ定ム
贓物ニ關スル罪トハ強竊盜ノ贓物ナルコト又ハ詐欺取
財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ
又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタルノ罪ナイフ此等
ノ罪ヲ犯シタル者ハ其性質事犯後ノ從犯トモ稱スヘク
海外諸國ノ法制中之ヲ以テ從犯ナリト定メタルモノ蓋
シ以テ少ナシトセス然レトモ道理上事犯後ニ從犯ナル

モノアルヘカラサレハ吾カ刑法ニ於テハ之ヲ從犯ト爲
サス其罰スヘキモノハ特ニ明文ヲ掲ケテ以テ一種特別
ノ罪ト爲シタリ

第三百九十九條

強竊盜ノ贓物ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ
若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁
錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

- 一 本條ノ解
- 二 本條ト第百五十二條トノ區別如何
- 三 本條ノ罪ハ盜犯ノ裁判前ニ之ヲ論スルヲ得サル
乎

〔一〕〇本條ハ強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄

贓物ニ關スル罪 第三百九十九條

藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ノ罪ヲ定ム
 凡ソ強竊盜ヲ爲ス者ハ其目的贓物ヲ以テ不正ノ利得ヲ
 攫セント欲スルニアリ故ニ通貨ヲ盜ミタル者ハ格別他
 ノ物品ヲ盜ミタル者ハ自己ノ費消ニ供スルノ外ハ必ス
 之ヲ處置セサルヘカラス此贓物ノ處置ハ盜犯ニ於テ尤
 モ難シト爲ス所ナリ今若シ事犯後ニハ從犯アルヘカ
 ストノ理ヲ擴張スルノ甚シキ之ヲ其範圍外ニ擠出シ贓
 物ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ其他之ヲ處置スルノ幫助ヲ爲
 シタル者ハ法律上罰スヘカラサルモノナリトセハ盜犯
 愈々多キヲ加ヘ滋々蔓々遂ニ制スヘカラサルニ至ラン
 加之贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ク
 ハ牙保ヲ爲シタル者ハ多少不正ノ利益ヲ僥倖スルモノ

ナリ法律必スシモ之ヲ不問ニ付スヘカラス是レ本條之
 ナリ以テ一種ノ罪ト爲シ一月以上三年以下ノ重禁錮及ヒ
 三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタル所以
 ナリ
 受ケトハ何ソヤ高木氏刑法曰ク受贈ノ義ナリト此解恐
 シハ狹隘ニ失スヘシ何トナレハ受贈寄藏故買ノ外仍ホ
 贓物ヲ受クルノ道アレハナリ故ニ余ハ贈與典物又ハ貸
 借ノ名義ヲ以テスルトニ論ナク苟モ贓物ヲ受ケ而シテ
 其寄藏又ハ賣買ノ名義ニ出テサルモノハ皆ナ此中ニ包
 含スヘシトス

寄藏トハ寄託ヲ受ケテ之ヲ藏匿スルナリト故買トハ故
 ラニ買取ルナリト又牙保トハ本條ニ定メタル三箇ノ所

爲ニ付キ之カ世話ヲ爲シ又ハ其請人ト爲ルノ類チイフ
 或問テ曰ク例ヘハ盜賊タルコトヲ知テ之カ搬運ヲ爲シ
 タル者ハ如何ト或之ニ答ヘテ曰ク搬運ヲ爲シタル者ハ
 一時其贓物ヲ寄藏シタル者ナリト非ナリ寄藏トハ寄託
 ナ受ケテ之ヲ藏匿スルノ謂ナレハ單ニ搬運ヲ爲シタル
 者ヲ以テ寄藏者ナリト爲スヲ得ス然レトモ其贓物ヲ受
 ケタルヤ一點ノ疑訝ナケレハ贓物ヲ受ケタル者ヲ以テ
 論スヘキナリ曩ニ第百九條ノ下ニ在テ從犯ノ事ヲ論シ
 例ヘハ犯人内ニ入リテ貨物ヲ盜ミ之ヲ外ニ携出スルニ
 當リ己レ其搬運ヲ助ケタル者ノ類ハ之ヲ罰スルヲ得ス
 ト説ケリ或ハ之ヲ前後牟盾セリトイフ者アラン然レト
 モ是レ唯思ハサルノニ法ヲ學フ者單ニ犯人ノ搬運ヲ助

成シタルト其贓物ヲ受ケタルトテ誤了スヘカラス
 本條ノ罪ヲ成スニ主要ナル一元素ハ贓物ナルコトヲ知
 ルコト是レナリ故ニ縱ヒ本條ノ所爲ヲ行フト雖モ其贓
 物ナルコトヲ知ラサルトキハ固ヨリ罪ナシ又縱ヒ之ヲ
 知リタリト雖モ事後ニ係ルトキハ仍ホ之ヲ罰スルヲ得
 ス是レ本條ニ於テハ單ニ贓物ナルコトヲ知ルヲ要スル
 ノミナラス知テ而シテ寄藏故買等ヲ爲シタルヲ要スレ
 ハナリ
 或問テ曰ク然ラハ寄藏ノ如ク其所爲繼續スルモノニ在
 テモ亦之ヲ受クル當時其贓物ナルコトヲ知ラサルトキ
 ハ寄藏中之ヲ知り得タリト雖モ其罪アラサル乎ト高木
 氏刑法解法曰ク寄藏ノ如キハ所謂繼續犯タルヲ以テ假令寄

藏チ爲スノ現時ニ於テハ其贓物タルヲ知ラサルモ中コ
 ロ其贓物ナルヲ知テ後チ仍ホ之ヲ寄藏スルモ即チ
 此條ノ罪タル可シト余思フニ寄藏ハ其所爲繼續スルモ
 ノナルヤ固ヨリ明カナリト雖モ其寄藏中贓物ナルコト
 チ知り之ヲ謝斷シ若クハ官ニ訴フル等相當ノ處置チ行
 ハサルカ爲メ此條ノ罪チ以テ之ヲ懲罰スヘシト爲スハ
 恐クハ苛酷ニ失スヘシ實ニ苛酷ニ失スルノミナラス亦
 其理アラサルナリ抑本條ノ罪ハ行犯ニシテ或問ノ場合
 ノ如キハ不行犯ナリ行犯ハ罪タルノ所爲チ進テ行フ所
 ノモノコシテ其罪惡概シテ重大ナリト雖モ不行犯ハ唯
 行フヘキチ行ハサルニ止マリ進テ事チ行フモノニ非サ
 レハ其罪惡概シテ輕小ナリ之ヲ法律ニ考フルニ不行犯

ハ特ニ其害ノ大ナルニ非サレハ之ヲ罪スルコトナシ今
 本條ノ場合ニ於テ贓物ナルコトヲ知テ而シテ之ヲ寄藏
 スルト寄藏中其贓物ナルコトヲ知テ而シテ之カ相當ノ
 處置チ行ハサルト其罪惡果テ伯仲スヘキ乎余ハ其輕重
 霄壤モ管ナラサルヲ知リ且不行犯ノ行犯ト同シク罰ス
 ヘラサルヲ了ス故ニ余ハ寄藏ノ場合ニ於テモ亦贓物ナ
 ルコトヲ知テ而シテ之ヲ受ケタルトキニ非サレハ本條
 ノ刑チ以テ之ヲ律スヘカラスト然レトモ前段ノ場合
 ニ於テ新ニ寄藏スルト同様ナル所爲チ行ヒタルトキハ
 格別ナリトス例ヘハ寄藏者其贓物ナルコトヲ知リタル
 カ故ニ之ヲ盜犯ニ返還スヘシト爲シタルニ盜犯ニ於テ
 或ハ物ヲ贈リ又ハ強テ之ヲ委頓シタルカ爲メ引續キ之

ヲ寄藏シタル場合ノ類ナリ

〔三〕〇或問テ曰ク本條ト第百五十二條トハ何ニ依テ區別ヲ設クヘキ乎ト曰ク本條ニ所謂寄藏トハ盜犯ニ於テ贓物ヲ賣却シ其他之カ處置ヲ爲スカ爲メニ寄託シタルヲ受ケ之ヲ藏匿シタルニシテ第百五十二條ハ同條ニ明示シタル如ク他人ノ罪ヲ免カラシメンカ爲メニ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隱蔽シタルモノナリ故ニ其贓物罪證ト爲ルヘカラサル物件ナルトキハ勿論罪證ト爲ルヘキ物件ナリト雖モ之ヲ其盜犯ノ罪ヲ免カラシメンカ爲メニ寄藏シタルニ非サルトキハ皆ナ本條ニ依テ處斷スヘキモノナリ

〔三〕〇或問テ曰ク本條ノ罪ハ強竊盜ノ犯人刑ニ處セラレタ

後ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得サル乎ト曰ク本條ノ罪ハ盜罪未タ定マラサルニ當テ之ヲ論スルコト頗ル困難ナリ何トナレハ其物件ノ盜賊ナリヤ否ヲ判定シ難ケレハナリ今此點ニ付テハ甲乙二説アリ甲曰ク寄藏故買等ヲ爲シタル物件ノ果テ盜賊ナルト否トヲ審定スルハ盜罪ヲ取調ヘタル上ニ非サレハ實際最モ難シト爲ス所ナリ然レトモ其難易ハ唯證據部内ニ屬スルモノナレハ若シ其盜賊ナルト明了ナル場合ニ於テハ盜犯未タ知レサル場合ト雖モ仍ホ寄藏故買者等ヲ罰シテ敢テ妨ケアラサルナリト乙曰ク寄藏故買者等ハ海外諸國ノ法制ニ於テハ多クハ之ヲ以テ從犯ト爲シタリ吾カ刑法ニ於テハ專ラ道理ニ基キ從犯ニ非スト定メタリト雖モ而モ彼此

ル後ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得サル乎ト曰ク本條ノ罪ハ盜罪未タ定マラサルニ當テ之ヲ論スルコト頗ル困難ナリ何トナレハ其物件ノ盜賊ナリヤ否ヲ判定シ難ケレハナリ今此點ニ付テハ甲乙二説アリ甲曰ク寄藏故買等ヲ爲シタル物件ノ果テ盜賊ナルト否トヲ審定スルハ盜罪ヲ取調ヘタル上ニ非サレハ實際最モ難シト爲ス所ナリ然レトモ其難易ハ唯證據部内ニ屬スルモノナレハ若シ其盜賊ナルト明了ナル場合ニ於テハ盜犯未タ知レサル場合ト雖モ仍ホ寄藏故買者等ヲ罰シテ敢テ妨ケアラサルナリト乙曰ク寄藏故買者等ハ海外諸國ノ法制ニ於テハ多クハ之ヲ以テ從犯ト爲シタリ吾カ刑法ニ於テハ專ラ道理ニ基キ從犯ニ非スト定メタリト雖モ而モ彼此

密着セル關係ヲ有スルモノナルヤ疑フヘカラス其性質
 恰モ從犯ノ如ク盜犯ト同時若クハ其裁判後ニ非サレハ
 之ヲ裁判スルヲ得サルナリト余思フニ既ニ吾カ刑法ニ
 於テハ寄藏故買等ヲ以テ一罪ト爲シタル以上ハ盜犯ノ
 裁判前ト雖モ之ヲ罰シテ敢テ妨ナキニ似タリ然レトモ
 乙者ノ論スル如ク其所爲ヤ盜犯ト最モ密着セル關係ヲ
 有スルモノニシテ其贓物ナリヤ否ヲ定ムルノ難易ハ強
 チ證據部内ニ屬スルモノニ非サレハ實際執行官タル者
 ハ盜犯ト同時若クハ盜罪ニ對スル裁判ノ後ニ非サレハ
 之ヲ審判セサルヲ以テ可トス蓋シ此ノ如ク爲スモ實際
 其弊ヲ見ルコト少カラシ何トナレハ治罪法ニ闕席裁判
 ノ設ケアレハ其事ノ明白ナルトキハ盜犯現在セサルモ

於テハ寄藏故買等
 乙者ノ論スル如ク
 其所爲ヤ盜犯ト
 最モ密着セル關係
 有スルモノニシテ
 其贓物ナリヤ否
 ヲ定ムルノ難易ハ
 強チ證據部内ニ屬
 スルモノニ非サレ
 ハ實際執行官タル
 者ハ盜犯ト同時
 若クハ盜罪ニ對ス
 ル裁判ノ後ニ非サ
 レハ之ヲ審判セサ
 ルヲ以テ可トス蓋
 シ此ノ如ク爲スモ
 實際其弊ヲ見ルコ
 ト少カラシ何トナ
 レハ治罪法ニ闕席
 裁判ノ設ケアレハ
 其事ノ明白ナルト
 キハ盜犯現在セサ
 ルモ

之ニ對シテ闕席裁判ヲ爲シ而シテ寄藏者若クハ故買者
 ナ罰スルヲ得ヘク亦其事明白ナラサルカ爲メ盜犯ニ對
 シテ闕席裁判ヲ爲スヲ得ヘカラサルトキハ寄藏故買等
 ナ罰スヘカラサレハナリ

○佛刑法第六十二條 故ラニ重罪又ハ輕罪ニ因テ盜奪
 詐取又ハ獲得シタル物件ノ全部或ハ其一分ヲ藏匿
 シタル者ハ其重罪又ハ輕罪ノ從犯トシテ罰セラル
 ヘシ〔刑〕五九、六三、

同第六十三條 然レトモ重罪ノ正犯ニ死刑ヲ適用ス
 へキトキハ藏匿者ニ對シテハ死刑ニ換ユルニ無期
 徒刑ヲ以テスヘシ
 如何ナル場合ニ於テモ其藏匿ノトキニ當リテ法律

上死刑無期徒刑及ヒ流刑ヲ適用スル所ノ模様ヲ知
リタルノ證アルトキニ非サレハ無期徒刑又ハ流刑
ヲ適用スヘキ場合ニ於テ其藏匿者ニ對シテ無期徒
刑又ハ流刑ヲ言渡スコトヲ得ス然ラサルトキハ藏
匿者ハ有期徒刑ノミヲ受クヘシ [刑]五九以下

第四百條

前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ
付ス

○本條ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ監視ニ付スル旨
ヲ定ム

前條ノ罪ハ殆ト之ヲ業視シテ輒モスレハ屢スル者アリ
故ニ再犯ヲ豫防センカ爲メニ時ニ本條ヲ設ケタリ

第四百一條

詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルトヲ知テ之
ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十
一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以
下ノ罰金ヲ附加ス

○本條ハ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコト
ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル
者ノ罪ヲ定ム

詐欺取財ニ關スル物件トハ詐取シタル所ノ物件チイフ
其他ノ犯罪ニ關シタル物件トハ遺失物理藏物及ヒ家資
分散ノ際藏匿脱漏シタル物件チイフ或ハ賄賂モ亦之ヲ
包含スト云フ者アリト雖モ無稽ノミ本條ハ第三編第二

章中ニ在ルモノナレハ其指ス所ハ第二章中ニ定メタル
罪ナリト了セサルヘカラス是レ第二章中ニ在ル規則ハ
法ニ明文ナキ以上ハ決テ之ヲ他ニ及ホスタ得サレハナ
ル故ニ余ハ本條ニ所謂其他ノ犯罪トハ本條ニ定メタル
所ノモノニ限ラントス

本條ニ付テハ二箇ノ問題アリ左ニ之ヲ開説スヘシ

一 本條ニハ云々犯罪ニ關シタル物件トアリ關スルト
ハ關係ヲ有スルノ義ナレハ單ニ詐取シタル物件隱匿脱
漏シタル物件ノミニ限ラズ犯罪ノ用ニ供シタル物件モ
亦其中ニ包含スルヤ如何余思フニ犯罪ニ關シタル物件
中ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲモ包含スルモノト解ス
ルトキハ之カ限界ナキニ至リ恐クハ大原ノ野艸ヲ摘ム

犯罪ニ關シ
ハ關係ヲ有スル
ノ義ナレハ單ニ
詐取シタル物件
隱匿脱漏シタル
物件ノミニ限ラ
ズ犯罪ノ用ニ供
シタル物件モ亦
其中ニ包含スル
ヤ如何余思フニ
犯罪ニ關シタル
物件中ニ犯罪ノ
用ニ供シタル物
件ヲモ包含スル
モノト解スルト
キハ之カ限界ナ
キニ至リ恐クハ
大原ノ野艸ヲ摘
ム

カ如キノ觀アラシク加之本條ハ專ラ贓物ニ關スル罪ヲ定
ムルモノナレハ之ヲ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ及ホス
コトヲ得ス夫ノ詐取シタル物件藏匿脱漏シタル物件ノ
類ハ之ヲ贓物トイフヘキモ其罪ヲ犯スノ用ニ供シタル
物件ハ之ヲ贓物トイフ能ハサルニ因テ明カナリ

二 家資分散ノ際藏匿脱漏シタル物件ヲ受ケ又ハ竊藏
故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ家資分散ニ關スル罪
ノ共犯人タルカ如シ然ルニ時ニ本條ヲ以テ之ヲ罰スル
ハ少ク其當ヲ失スルニ似タリ如何此點ハ宜ク區別ヲ設
ケテ之ヲ論セサルヘカラス本條ハ共犯人ノ事ヲ定メダ
ルモノニ非サレハ家資分散ニ關スル罪ノ共犯人ハ其共
犯トシテ之ヲ罰シ共犯人ニ非スシテ其藏匿脱漏シタル

贓物ニ關シ
ハ關係ヲ有スル
ノ義ナレハ單ニ
詐取シタル物件
隱匿脱漏シタル
物件ノミニ限ラ
ズ犯罪ノ用ニ供
シタル物件モ亦
其中ニ包含スル
ヤ如何余思フニ
犯罪ニ關シタル
物件中ニ犯罪ノ
用ニ供シタル物
件ヲモ包含スル
モノト解スルト
キハ之カ限界ナ
キニ至リ恐クハ
大原ノ野艸ヲ摘
ム

物件ナルコトヲ知テ而シテ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ本條ニ依テ處斷スヘキナリ故ニ藏匿ノ事ニ加功シテ其財産ヲ藏匿セシカ爲メ之ヲ寄藏シタル者又ハ脱漏ノ事ニ加功シ脱漏ヲ遂ケシメンカ爲メ之ヲ故買シタル者ノ如キハ本條ノ正面ニ當ラズ之ニ反シテ藏匿ノ事ニ加功セス一旦藏匿シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ寄藏故買シ又ハ脱漏ノ事ニ加功セス唯脱漏シタル財産ナルコトヲ知テ之ヲ寄藏故買シタル者ノ類ハ本條ニ依テ處斷スヘキナリ或問テ曰ク本條ノ刑何故ニ前條ノ刑ヨリ其大半ヲ輕フシタル乎ト曰ク盜賊ヲ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲ス者ハ盜犯ヲシテ盜偷ノ目的ヲ容易ニ達セシムルモノニシ

テ暗ニ盜犯ヲ獎勵スルノ恐レアリ且此等ノ所爲ハ恰モ一ノ業トシテ之ヲ行フ者多キカ故ニ其害大ニ且再犯ノ憂アリト雖モ他ノ贓物ニ至テハ此ノ如キノ虞ナク又之ヲ以テ一ノ業トシ屢スルカ如キ者亦殆ト稀ナリ是レ贓物ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲スノ事彼此均シク同一ナルモ其刑ニ大差アル所以ナリ

○佛刑法第六十二條 前條ニ全交ヲ掲ク

同第六十三條 同上

第七節 放火失火ノ罪

○本節凡テ九條放火失火ノ罪ヲ定ム

放火トハ故意ヲ以テ家屋物件ヲ燒燬スルヲイヒ失火ト

放火失火之罪

ハ疎虞懈怠ニ因リ家屋物件ヲ燒燬スルタイフ失火ノ罪
 ハ一ニ過キスト雖モ放火ノ罪ハ其燒燬スル所ノ家屋物
 件ニ因テ自ラ其刑ニ輕重ヲ設ケ之ヲ五等ニ區別シタリ
 第一火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋及ヒ人ヲ乘載シタル
 船舶漁車ヲ燒燬シタル者第二火ヲ放テ人ノ住居セサル
 家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者第三火ヲ放テ廢屋及
 ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎及ヒ人ヲ乘載セサル船舶漁
 車ヲ燒燬シタル者第四火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥
 又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者第
 五火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者は是レナリ請フ條
 ヲ逐フテ之ヲ開説セン

第四百二條

火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑
 ニ處ス

一 本條ノ解

二 第一條件ノ解 ○人ノ住居シタル家屋ノ中ニハ其
 用ニ供スヘキモノヲモ包含スル乎 ○現ニ人ノ在
 ル神社佛閣其他ノ建造物ニ放火シタル者ハ如何
 ○現ニ人ノ住居スル神社佛閣等ニ放火シタル者
 ハ如何 ○家屋トハ其所有權ノ自他ニ屬スルヲ問
 ハサル乎

三 第二條件ノ解

四 第三條件ノ解 ○犯人ノ住居シタル家屋ナルコ
 トヲ知ラサリシトキハ如何

第四百二條

〔一〕〇本條ハ第一等ニ位スル所ノ放火罪ヲ定ム
火ヲ放テ家屋ヲ燒燬スル其罪既ニ大ナリ矧ンヤ其家屋
タル人ノ住居シタルモノナルトキハ爲メニ人ノ身體生
命ニ危害ヲ加フルノ恐レアリ故ニ本條之ヲ死刑ニ處ス
ヘシト定メタリ

要領三

本條ノ罪ニハ三箇ノ條件ヲ必要トス曰ク人ノ住居シタ
ル家屋ニ火ヲ放テタルコト曰ク家屋爲メニ燒燬シタル
コト曰ク故意ヲ以テシタルコト是レナリ
〔三〕〇第一條件 既ニ開設シタル如ク放火ノ罪ハ其燒燬ス
ル所ノ家屋物件ノ種類ニ因リ其刑ニ輕重ノ別アリ本條
ハ火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ノ罪ヲ
定ム故ニ此罪ヲ構造スルニハ其家屋必スシモ人ノ住居

シタル所ノモノヲ放ササルヘカテサレナリ

人ノ住居シタル家屋トハ現ニ人ノ住居スル所ノ家屋ヲ

イフ尙ホ此點ニ付キ一二ノ難問アリ左コ之ヲ辨スヘシ

〇人ノ住居シタル家屋トハ現ニ人ノ住居スル所ノ家屋

ノミチイフ平將々佛朗西法ニ定メタル如ク人ノ住居ニ

供スヘキ家屋ヲモ包含スヘキ乎高木氏刑法曰ク人ノ住

居シタル家屋トハ現在人ノ居ル家屋及ヒ現在人ノ住居

ニ用フル家屋ノ義トス故ニ現ニ火ヲ放テタル時偶住人

ノ他出シテ在ラサルモ同ク人ノ住居シタル家屋トスト

是ナリ故ニ人ノ住居スル所ノ家屋ハ時ニ偶其住人他出

シテ裡ニ在ラサルモ仍ホ之ヲ以テ人ノ住居シタル家屋
ト爲スヘシ然レトモ現ニ人ノ住居シ又ハ現ニ人ノ住居

住居ニ
住居ニ
住居ニ
住居ニ
住居ニ

ニ用フル家屋ヲラサルトキハ縦ヒ人ノ住居ニ供スヘキ
 家屋ト雖モ本條ノ正面ニ當ラサルナリ
 ○或問テ曰ク佛文章案第四百四十五條第三項ニ曰ク本
 條ヲ適用スルニ付キ公私及ヒ宗教上ノ集會用ニ供スル
 建造物ハ集會又ハ宗教上ノ事ヲ行フ時間ハ人ノ住居シ
 タル家屋ニ準スヘシト此規則既ニ削除セラレタルヲ以
 テ今日ニ在テハ集會所等ニ火ヲ放チタル者ハ本條ニ依
 テ處斷スルヲ得サル乎ト高木氏刑法曰ク夫ノ神社佛閣
 其他諸般ノ集會所職工場劇場若クハ各種ノ工業場ノ如
 キ或ハ晝間而已人アリ或ハ夜間而已人在リ或ハ又定時
 人ノ群集スルアルモ平常人ノ住居スヘキ家屋ニ非サル
 建造物ハ現ニ其人不在ル時ト其人無キ時トニ分チ現ニ人

在ル時ニ隣リテ放火シタル者ハ此條ニ依リ否ラサル時
 ハ次條ニ依テ處斷スト兪リ現ニ人ノ在ル建造物ニ放火
 シタルトキハ恰モ人ノ住居シタル家屋ニ放火シタルニ
 同ク人ノ身体生命ニ危害ヲ生スルノ恐レアルカ故ニ之
 チ本條ノ晴精ニ鑑査シテ寔ニ高木氏ノ説ヲ當ナルヲ知
 ル然レトモ蓋シ是レ立法上ノ論ニシテ解法上恐クハ然
 カイフヲ得サルヘシ何トナレハ單ニ人ノ在ルト人ノ住
 居スルトハ自カラ相異ニシテ安ソ人ノ一時群集ス建
 造物ノ類ヲ指シテ人ノ住居シタル家屋トイフヲ得ンヤ
 之ヲ人ノ住居シタル家屋ヲ以テ論セント欲セハ必スシ
 モ其旨ヲ明示セサルヘカラサレハナリ故ニ余ハ人ノ住
 居セサル建造物ニ放火シタル者ハ當時現ニ人ノ在リシ

丁時に限り一時的に
此の法に依る家屋
の焼燬は許す

ト否トヲ論セス本條ノ正面ニ當ラサルモノトセン然レ
トモ此ノ如キハ道理上能ク其當ヲ得タルモノニ非サレ
ハ余ハ立法官ニ向テ本條ニ第二項ヲ設ケ平常人ノ住居
セサル建造物ト雖モ現ニ人在ルトキ之ニ放火シタル者
亦同シト定メラレシトテ希望ス
○或問テ曰ク然ラハ神社佛閣其他ノ建造物ト雖モ人ノ
之ニ住居スルモノヲ燒燬シタルトキハ本條ニ依テ處斷
スヘキ乎ト曰ク此點ニ付テハ甲乙二說アリ甲曰ク家屋
トハ人ノ住居スヘキ爲メニ建造シタルモノニシテ神社
佛閣等チイフモノニ非ス是レ第四百三條ニ人ノ住居セ
サル家屋其他ノ建造物トアルニ因テ明カナリ故ニ神社
佛閣等ニハ人ノ住居スルモノ以テ人ノ住居シタル家屋

神社佛閣ニシテ
其ノ性質ハ
人ノ住居スル
モノニ非ス

ト爲スチ得スト乙曰ク性質上ヨリ論スルトキハ神社佛
閣ノ類ヲ以テ家屋トイフハ少ク穩當ナラサルヘシト雖
モ若シ人之ニ住居スルトキハ人ノ住居シタル家屋ヲ以
テ論セサルヘカラスト余思フニ乙說可ナリ夫ノ一時人
ノ集會スル所ノ建造物ヲ以テ人ノ住居シタル家屋ナリ
ト爲スニハ法ノ明文ヲ要スト雖モ正ニ之ニ住居スルト
キハ神社佛閣ト雖モ仍ホ之ヲ以テ人ノ住居シタル家屋
ナリト爲スヘク法ノ明文ヲ要セサルナリ何トナレハ其
建造物ノ性質ヲ叩クトキハ固ヨリ神社佛閣ニシテ家屋
ニ非サルヘシト雖モ其人ノ之ニ住居シテ正ニ眷族ノ城
郭ヲ形スル以上ハ神社佛閣ニシテ同時ニ人ノ住居シタ
ル家屋ヲ兼ヌルモノナレハナリ然レトモ法律ハ事ノ明

令ノ精神ヲ案スルニ歸スル所事實裁判官ノ判定ニ任放
 スヘトシトイフニ在ルモ而モ放火其結果ヲ生シタルト
 キハ其多少ニ拘ハラズ之ヲ燒燬シタルモノト爲スニ在
 リ小笠原氏刑法註釋ハ火勢屋上ニ燃ヘ上リタルヲ以テ燒燬
 ナリトセリ是レ火勢屋上ニ燃ヘ上ラサレハ火災ト爲サ
 ストノ習慣ニ依レルモノナラン今字義ヲ釋スルニ燒ハ
 焚ナリ燬ハ焚壞ナリ迺チ燒燬ハ猶ホ焚壞トイフカコト
 シ故ニ其目的トスル所ノ家屋焚壞シタルトキ始テ之ヲ
 燒燬シタルトイフヘキニ似タリ此點頗ル囁々糺々トシ
 テ之ヲ了解スル稍困難ナリト雖モ余ノ思考スル所ヲ以
 テスレハ燒燬トハ家屋等ニ放火シ之カ爲メニ其家屋ノ
 全ク燒失シタルトキハ勿論縱ヒ未ダ全ク燒失セスト雖

ト爲サントス何トナレハ家屋既ニ焚壞シタルモノナレ
 ハナリ故ニ庇宇戸障等燒燬シタルモ未ダ家屋ノ緊要ナ
 ル部分之カ爲メニ焚壞セサルトキ等ハ之ヲ以テ燒燬ト
 爲スヘカヲサルナリ然リ而シテ家屋其用ヲ爲サ、ルニ
 至リタルト否トハ實際ノ模様如何ニ在リテ豫メ之ヲ一
 定スル能ハサルナリ

モ家屋ノ用ヲ爲サ、ルニ至リタルトキハ之ヲ以テ燒燬
 ト爲サントス何トナレハ家屋既ニ焚壞シタルモノナレ
 ハナリ故ニ庇宇戸障等燒燬シタルモ未ダ家屋ノ緊要ナ
 ル部分之カ爲メニ焚壞セサルトキ等ハ之ヲ以テ燒燬ト
 爲スヘカヲサルナリ然リ而シテ家屋其用ヲ爲サ、ルニ
 至リタルト否トハ實際ノ模様如何ニ在リテ豫メ之ヲ一
 定スル能ハサルナリ

〔四〕○第三條件

人ノ住居シタル家屋ニ放火スルヤ必スシ
 モ故意アリ故ニ故意ノ點ニ付テハ敢テ論スヘキモノナ
 キカ如シト雖モ故意トハ唯故ヲニ火ヲ放ツノミニ成ル
 乎將々之ヲ燒燬スルノ意アルヲ要スル乎ノ點ニ至テハ
 少ク之ヲ論究セサルヘカラス

只同知事
余思フニ放火ノ罪ハ管ニ故意ヲ以テ火ヲ放チタルヲ要
スルノミナラス亦其目的トスル所ノ家屋ヲ燒燬スルノ
意アルヲ必要トスルモノアリ請フ左ニ例ヲ擧ゲテ之カ
區別ヲ辨スヘシ
例ヘハ茲ニ人ノ住居シタル家屋ニ接近セル納屋ニ火ヲ
放チ人ノ住居シタル家屋モ亦延テ燒失シタルアリ此場
合ニ於テ若シ犯人故ヲニ火ヲ放チタルノミニテ既ニ罪
ヲ構成スルニ充分ナリトセハ其故ヲニ納屋ニ火ヲ放チ
タルノ事實ヲ認メハ直チニ本條ニ依テ之ヲ罰スルヲ得
ヘシ然レトモ若シ其目的トスル所ノ家屋等ヲ燒燬スル
ノ意アルヲ必要ト爲ストキハ尙ホ進テ人ノ住居シタル
家屋ヲ燒燬スルノ意アリシカ將タ納屋ヲ燒燬スルノ

アルニ止マリシ乎ヲ稽查セサルヘカラス今本條ニハ人
ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者トアリ故ニ人ノ住居
シタル家屋ヲ燒燬スルノ意アルトキニ非サレハ本條ニ
依テ之ヲ處斷スルヲ得サルナリ此點ハ尙ホ次條ニ於テ
之ヲ詳説スヘシ
○或問テ曰ク火ヲ放テ或ル家屋ヲ燒燬シタルモ犯人ニ
於テ其人ノ住居スルモノナルコトヲ知ラサリシトキハ
如何ト曰ク現ニ人ノ住居スル家屋ヲ燒燬スルヤ犯人ニ
於テ其人ノ住居スルモノタルコトヲ知ラサルコト實際
殆ト稀ナラン然レトモ亦決テ之レ無シト斷言スヘカラ
ス畫問ノミ人ノ群集スル建造物ニ火ヲ放チタルニ其建
造物中ニ人ノ住居シアリシトキノ類是レナリ此ノ如キ

場合ニ於テハ總則第七十七條第三項ニ從ヒ次條ニ依テ處斷スヘキモ本條ニ依テ處斷スルヲ得サルナリ

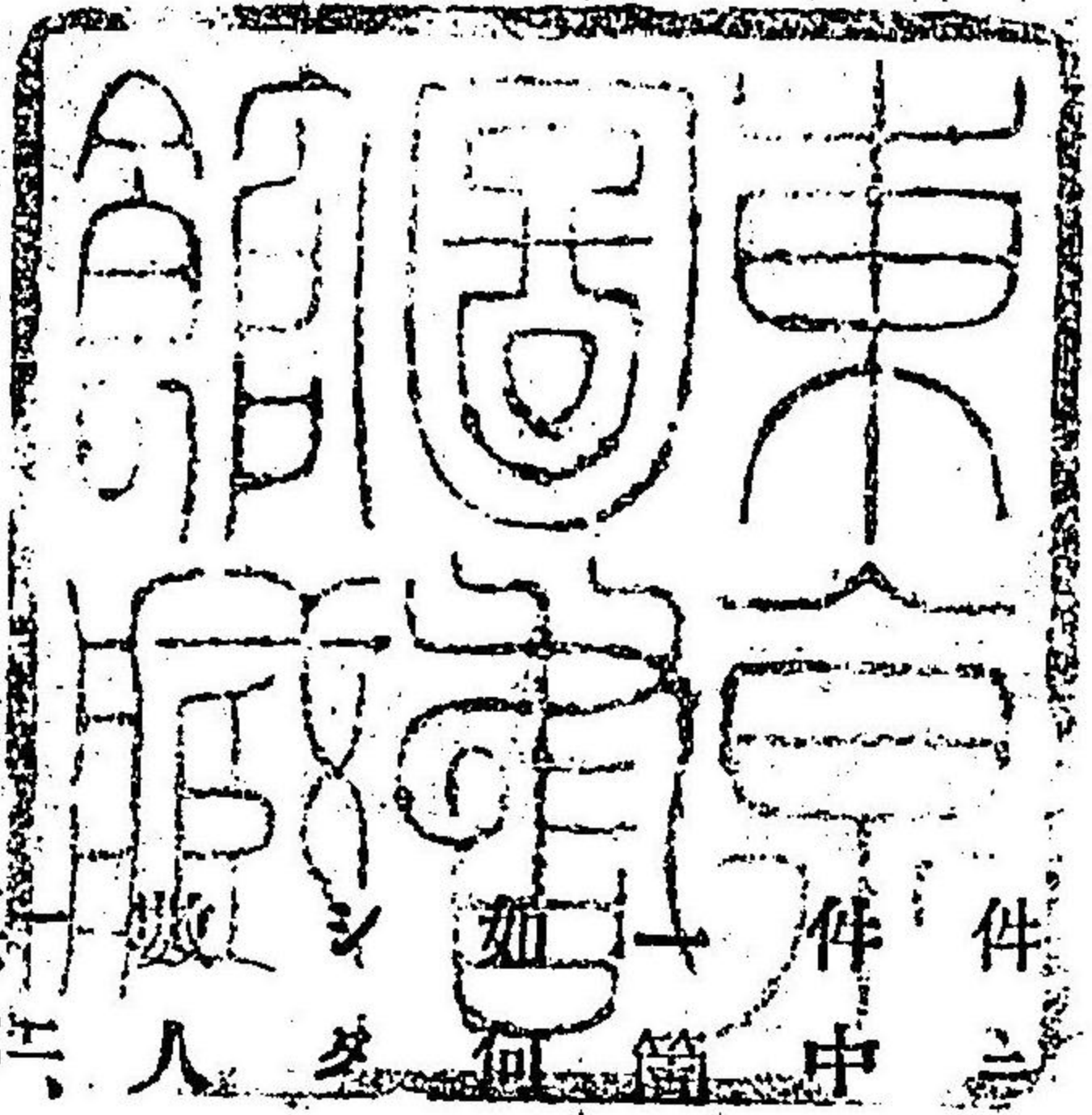
○佛刑法第四百三十四條五月八日改正何人ニ限ラ

ス人ノ住居シ又ハ人ノ住居ニ用フルトキ建造物船倉庫物置場及ヒ一般ニ人ノ住居シ又ハ人ノ住居ニ用フル場所ニ故意ヲ以テ火ヲ放チタル者ハ其重罪ノ正犯ニ屬スルト屬セサルト問ハス死刑ニ處セラルヘシ〔刑〕七、一、二、三、六、
何人ニ限ラス人ヲ載セタル車或ハ瀛車又ハ人ヲ載セスト雖モ人ノ乘リタル列車ノ一部分タル車或ハ瀛車ニ故意ヲ以テ火ヲ放チタル者ハ右ト同一ノ刑ニ處セラルヘシ

何人ニ限ラス人ノ住居セサルトキ又ハ人ノ住居ニ用ヒサルトキ建造物船倉庫物置場ニ故意ヲ以テ火ヲ放チ又ハ森林藪澤又ハ植生ノ收穫物ニ故意ヲ以テ火ヲ放チタル者ハ此等ノ物件ノ已レニ屬セサルトキハ無期ノ徒刑ニ處セラルヘシ〔刑〕七、一、五、一、六、七、〇以下、

前項ニ列記シタルモノヨシテ已レニ屬スル所ノ物件中ノ一箇ニ火ヲ放チ又ハ放チシメ故意ヲ以テ他人ニ若干ノ損害ヲ被ムヲシメタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラルヘク所有者ノ命令ニ依リ火ヲ放チタル者ハ同一ノ刑ニ處セラルヘシ
何人ニ限ラス堆積シ又ハ把束シタル藪又ハ收穫物

若クハ堆積又ハ尺度ヲ定メテ整列シタル木材若クハ商品又ハ其他ノ動産ヲ載セタルト載セサルトヲ問ハス人ノ乘リタル列車ノ一部分タラサル車或ハ瀛車ニ故意ヲ以テ火ヲ放チタル者ハ此等ノ物件ノ已レニ屬セサルトキハ有期ノ徒刑ニ處セラルヘシ
〔刑〕七、一五、一六、一七、一八、一九、二〇以下、二八以下、三四、三六、四七、四八、四九、五〇以下、
 前項ヨリ列記シタルモノニシテ已レニ屬スル所ノ物件中ノ一箇ニ火ヲ放チ又ハ火ヲ放タシメ故意ヲ以テ他人ニ若干ノ損害ヲ被ムラシメタル者ハ懲役ノ刑ニ處セラルヘシ所有者ノ命令ニ依リ火ヲ放チタル者ハ同一ノ刑ニ處セラルヘシ〔刑〕七、二一以下、二八以下、三四、三六、四七、四八、四九、五〇以下、
 已レニ屬シ又ハ他人ニ屬スルモノニシテ前數項ニ



列記シタル物件ニ火ヲ傳フヘキ様ニ置カレタル物件ニ故意ヲ以テ火ヲ放チ其前數項ニ列記シタル物件中ノ一箇ニ火ヲ傳ヘタル者ハ直チニ其物件中ノ一箇ニ火ヲ放チタルト同一ノ刑ニ處セラルヘシ
〔刑〕七、二一以下、二八以下、三四、三六、四七、四八、四九、五〇以下、
 如ナル場合ニ於テモ若シ放火ノ爲メニ其火ノ發シタルトキニ於テ其燒ケタル場所ニ在ル一人又ハ數人ヲ死ニ致シタルトキハ其刑ハ死刑タルヘシ〔刑〕七、二一以下、二八以下、三四、三六、四七、四八、四九、五〇以下、

第四百三條

火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

一 本條ノ解

第四百三條

二 人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬セシカ爲メ人ノ住居セサル家屋ニ火ヲ放チタル者ハ如何

〔一〕〇本條ハ第二等ニ位スル所ノ放火罪ヲ定ム

火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬スルトキハ人ノ身體生命ニ危害ヲ加フルノ恐レアリ故ニ死刑ヲ以テ之ヲ罰スヘシト雖モ人ノ住居セサル家居其他ノ建造物ニ放火シタルトキハ或ハ間接ニ人ノ生命ヲ危フスルコトアルヘキモ其因テ生スル所ノ直接ノ損害ハ獨リ財産上ニ止マルカ故ニ之ヲ死刑ニ處セス然レトモ放火ハ貴重ナル不動産ヲ烏有ニ屬セシムルノミナラス吾カ國ノ如キハ往々爲メニ數百戸ヲ燒失セシムルコトアリ其公衆ニ畏怖ノ念ヲ抱カシムル殊ニ甚シキモノナリ故ニ之ヲ無

期徒刑ニ處スヘシト定メタリ

本條ノ罪モ亦前條ノ罪ト同シ三箇ノ條件ヲ必要トス而シテ其條件タル前條ニ於テ開説シタル所ニ同シケレハ茲ニ複説ノ勞ヲ取ラス唯其異ナル點ノミヲ論スヘシ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ノ何タルコトハ前條説ク所ノ裏面ニ就テ推測スルトキハ自ラ明了ナルヘシ唯茲ニ注意ヲ要スルモノハ前條ノ罪ハ其家屋ノ他人ノ所有ニ屬スルト自己ノ所有ニ屬スルトヲ問ハスト雖モ本條ノ罪ハ其家屋其他ノ建造物他人ノ所有ニ屬スルトキニ限り自己ノ所有ニ屬スルトキハ第四百七條ニ依ルヘク本條ノ正面ニ當ラサルナリ然ルニ此點ニ付テモ亦一ノ難問アリ若シ其家屋建造物ニ他人ノ財物藏メアリ

シトキハ如何スヘキ乎ノ點是レナリ此點モ亦第四百七
條ニ至テ之ヲ論スヘシ

〔二〕○高木氏刑法ハ本條ニ付キ或問ヲ設ケテ曰ク此條以下
現ニ人ノ住居セサルト人ノ住居ニ非ルトニ依テ大井ニ
其刑ニ輕重アリ然ルニ本邦都鄙ノ別ナク火災ノ夥シキ
實ニ酸鼻ニ堪ヘサルモノアリ而シテ其放火ニ成ルモノ
十ノ八九トス然リ而シテ兇徒ノ狡獪ナル人ノ住居シタ
ル家屋ヲ燒カントシテ先ツ空屋或ハ自家ヲ燒キ刑ノ輕
キヲ規ルモノ無シトセス故ニ別ニ一條ヲ設ケ此條以下
ノ罪ヲ犯シ因テ人ノ住居シタル家屋ニ延燒シタル者ハ
第四百二條ノ刑ニ同シト爲ス可キカ如何答斯クノ
如キハ其放火スルノ目的人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬セ

ントスルニ在レハ其意而已ヲ以テ云フキハ第四百二條
ノ罪ト異ナル無シ然リト雖モ凡ソ立法者ノ法ヲ制シテ
罪ノ輕重ヲ定ムルヤ獨リ犯者ノ意而已ニ偏倚ス可カラ
ス而シテ又唯其害ノ多少ニモ依ルヲ得ス殊トニ放火ノ
如キハ其害ノ成跡即チ延燒ノ多少ヲ以テ罪ノ輕重ヲ定
ム可キモノニ非サル丁ハ識者ヲ俟スシテ知ル所トス故
ニ放火ノ輕重ヲ定ムルハ其成跡ニ依ラスシテ專ハラ其
危險ノ大小ニ依テ之ヲ定ムルヲ要スル者ナリ我刑法ノ
主義亦然ル可シ既ニ之ヲ然リトセハ其危險ノ大小ハ其
放火ノ所爲ヲ施コス所ノ物ニ就テ之ヲ定ムルノ外無カ
ル可シ故ニ我刑法ノ定ムル所未ダ完全タラストスルモ
之ヲ不當ト云フ可カラズ殊トニ其刑輕キモ輕懲役ヲ下

ラス(第四百七條ヲ除クノ外)假令或者云フ所ノ如キ者ア
 ツテ其目的ヲ達シタリトスルモ未ダ之ヲ太甚シキ不權
 衡ト云フ可カラサルナリ但第四百七條ノ場合ニ至テハ
 義解者亦意見アリ姑ヲク他日ヲ俟ツト此說大ニ余カ前
 條ノ下ニ於テ故意ノ點ニ付キ論シタル所ト相衝突セリ
 余カ鐵艦片點ノ罅孔ヲ生シタルカ余ハ葦葉ヲ排シテ却
 テ艦頭旗色ノ綺麗タルヲ覺ユルナリ
 高木氏ハ放火ノ輕重ヲ定ムルハ專ラ其危險ノ大小ニ依
 リ其危險ノ大小ハ其放火ヲ施ス所ノ物ニ就テ之ヲ定ム
 ルノ外ナシト說ケリ此レ能ク其當ヲ得タルモノナリ故
 ニ人ノ住居セサル家屋ニ放火シタルトキハ縱ヒ人ノ住
 居シタル家屋爲メニ延燒シタルモ直チニ之ヲ以テ第四

百二條ノ罪ヲ犯シタルモノト爲ヌテ得サルナリ然レト
 モ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬セシカ爲メニ人ノ住居セ
 サル家屋ニ放火シタル者モ亦第四百二條ニ依テ處斷ス
 ルヲ得ヌト爲ヌハ恐クハ純謬ノ見ナラン何トナレハ此
 ノ如キ場合ニ於テ人ノ住居セサル家屋ニ放火シタルハ
 是レ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬スルノ一手段ニシテ恰
 モ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬セシカ爲メ其傍ラニ堆積
 シアル柴草ニ火ヲ放チタルニ同シ故ニ高木氏ノ理由ト
 爲ヌ所ニ因ルモ仍ホ第四百二條ニ依テ處斷セサルヘカ
 ラサルナリ若シ然ラストセハ人ノ住居シタル家屋ヲ燒
 燬セシカ爲メ家ノ傍ラニ堆積シアル柴草ニ放火シタル
 者ハ家屋爲メニ燒失シタルモ仍ホ第四百六條ニ依テ僅

カニ輕懲役ニ處スルニ止メサルヘカラヌ豈此ノ如キ理
 アランヤ高木氏ニ於テ第四百七條ノ場合ニ付キ其說ヲ
 立テサル蓋シ自ラ求メテ窮スルモノ、如シ加之法律ニ
 ハ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シ云々トアリ法文亦毫モ
 余ノ所說ニ觸ル、所アレサルナリ
 或曰ク子ノ所說ニ依ルトキハ實際奇怪ナル結果ヲ生出
 スヘシ例ヘハ茲ニ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬セントシ
 テ納屋ニ放火シタルモノアリ納屋燒失シタルモ家屋ニ
 延燒セサリシトキハ之ヲ第四百二條ノ罪ノ未遂犯ト爲
 サ、ルヘカラサルヘシ今未遂犯ナルカ故ニ一等ヲ減ス
 ルトキハ敢テ其害ナキモ若シ二等ヲ減スルトキハ單ニ
 納屋ノミヲ燒燬セントシテ火ヲ放チタル者ヨリモ其刑

却テ輕キニ至ルコト是レナリト曰ク此點ハ容易ニ之ヲ
 氷解スルヲ得ヘシ何トナレハ納屋ニ火ヲ放ツハ人ノ住
 居シタル家屋ヲ燒燬スルニ關クヘカラサル方法ニ非ス
 故ニ此方法タル所爲ノ特立シテ罪ト爲リ而シテ其刑本
 罪ノ刑ヨリモ重キトキハ之ニ依テ處斷スヘケレハナリ
 故ニ犯人ノ意思目的人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬スルニ
 在ルトキハ納屋等ニ火ヲ放チタルモ又柴草ノ類ニ火ヲ
 放チタルモ必スシモ前條ニ依テ處斷セサルヘカラサル
 ナリ

○佛刑法第四百三十四條 前條ニ全
 交ヲ掲ケ

第四百四條

火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シ

第四百四條

タル者ハ重懲役ニ處ス

○本條ハ第三等ニ位スル所ノ放火罪ヲ定ム
 廢屋トハ人ノ住居シ又ハ貨物ノ畜藏シ得ヘカラサル所
 ノ家屋建造物ヲイフ此ノ如キ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯
 フル屋舎ハ之ヲ燒燬スルモ其及ホス所ノ損害之ヲ前數
 條ノ放火ニ方フルニ固ヨリ同日ノ論コアラズ故ニ其刑
 亦從テ輕カラサルヲ得スト雖モ猶ホ世安ヲ擾亂スル大
 ニシテ且他ヲ延燒スルノ虞アルヲ以テ例シテ之ヲ重罪
 ト爲シ重懲役ニ處スヘシト定メタリ
 或問テ曰ク屋既廢シタリ住居畜藏ノ用ニ充タラスト雖
 モ其性質ハ依然トシテ猶ホ家屋タリ故ニ其傾頽懸磬ノ
 如キモ人ノ之ニ住居シ貨物之ニ畜藏スルトキハ前二條

ニ依テ處斷スヘキコト固ヨリ明カナリト雖モ元來唯柴
 草肥料等ヲ貯フルカ爲メノ屋舎ニシテ之ヲ燒燬シタル
 ノ當時人ノ之ニ住居シ又ハ貨物ノ畜藏シアリタルトキ
 ハ如何處斷スヘキ乎ト曰ク此點ニ付テハ甲乙二說アリ
 甲曰ク其屋舎ノ性質柴草肥料等ヲ貯フル爲メノモノナ
 ルトキハ必スシモ本條ニ依テ處斷セサルヘカラスト乙
 曰ク其屋舎ノ性質ハ柴草肥料等ヲ貯フルカ爲メノモノ
 ナリト雖モ實地他ノ貨物ノ其裡ニ畜藏シアリタルトキ
 又ハ人ノ之ニ住居シタルトキハ前二條ニ依テ處斷セサ
 ルヘカラスト余思フニ屋舎ノ性質ハ多少其用法ニ因テ
 變スルモノナリ故ニ元ト柴草肥料等ヲ貯フルカ爲メニ
 設ケタル屋舎ト雖モ人ノ之ニ住居スルトキハ之ヲ以テ

人ノ住居シタル家屋トイフヘク又之ニ他ノ貨物ヲ蓄藏シアルトキハ之ヲ第四百三條ニ所謂建造物ト稱スヘキナリ然レトモ若シ犯人ニ於テ其柴草肥料等ヲ貯フルニ非サルコトヲ知ラサルトキハ其屋舎ノ性質ニ從テ之ヲ斷セサルヘカラサルナリ

○佛刑法第四百三十四條

全第四百二條ニ

第四百五條

火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶瀛車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

其人ヲ乘載セサル船舶瀛車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

〔二〇〕本條ハ第一等及ヒ第二等ニ位スル所ノ放火罪ヲ定ム

〔二一〕第一項 本項ハ第一等ニ位スル所ノ放火罪ヲ定ム

火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶瀛車ヲ燒燬スルトキハ乘込人其難ヲ逃避スルコト難ク多クハ其身體生命ヲ損スルモノナリ故ニ其害タル人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬スルヨリモ重キコトアルモ決テ輕キコトナシ是レ本項ノ罪之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタル所以ナリ
或問テ曰ク船舶瀛車ニ乗客ナク唯運轉手等ノミナルトキハ本項ノ正面ニ當ラサル乎ト曰ク乗客ノ有無ハ之ヲ問フニ違アラズ唯纜ニ茲ニ人アラハ則チ以テ本項ヲ適用スヘシ何トナレハ一人タリトモ其身體生命ヲ危フス

ルトキハ法律之ヲ嚴罰スルニ足レハナリ

〔三〕○第二項 本項ハ第三等ニ位スル所ノ放火罪ヲ定ム

家屋ニ付テハ人ノ之ニ住居スルトキハ死刑ニ處シ之ニ住居セサルトキハ無期徒刑ニ處スヘシト定メタリト雖モ船舶漁車ニ付テハ人ヲ乗載シタルト否トノ間ニ三等ノ差ヲ設ケ其人ヲ乗載セサルトキハ重懲役ニ處スヘシト定メタリ是レ人ヲ乗載セサル船舶漁車ニ放火シタルコトハ管ニ人ノ身體生命ヲ危フスルコトナキノミナラス延焼ノ恐れ少ナク從テ公衆ノ驚怖ヲ致スコト薄ケレハナリ

○佛刑法第四百三十四條 全文ヲ掲クニ

第四百六條

火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

○本條ハ第四等ニ位スル所ノ放火罪ヲ定ム

山林ニ在ル竹木田野ニ在ル穀麥又ハ露積シアル柴草竹木其他ノ物件ハ屋内ニ貯藏シタル貨物ト自ラ別狀ニシテ同一視スヘカラサルモノアリ然レトモ亦概シテ人ノ家屋等ニ延焼スルノ恐れ少ナシ故ニ本條之ヲ輕懲役ニ處スヘシト定メタリ

○佛別法第四百三十四條 全文ヲ掲クニ

第四百七條

火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百六條 第四百七條

- 一 本條ノ解○賃賃質入等ノ名義ヲ以テ他人ノ住居
スル家屋ヲ燒燬シタル者ハ如何○戸主現ニ住居
スル所ノ所有家屋ヲ燒燬シタル者ハ如何○人住
居セスト雖モ他人ノ占有スル所ノ家屋ヲ燒燬シ
タル者ハ如何○書入レ質入レシタル家屋ヲ燒燬
シタル者ハ如何○火災保險ニ付シタル家屋ヲ燒
燬シタル者ハ如何
- 二 自己ノ船舶漁車等ヲ燒燬シタル者ハ如何
- 三 本條ノ罪ニ加功シタル他人ノ擬律如何

〔一〕〇本條ハ第五等ニ位スル所ノ放火罪ヲ定ム

本條ノ罪タル其性質自被害罪ナリ法律之ヲ罰スヘカラ
サルニ似タリ然レトモ他ニ延燒スルノ憂アリ且人ヲシ

テ驚怖ノ念ヲ抱カシムルモノナレハ亦公ヲ害スルナシ
トセス故ニ本條之ヲ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
ヘシト定メタリ

本條ニ付テハ數多ノ問題アリ左ニ逐一之ヲ辨スヘシ

〇第一 賃賃質入等ノ名義ヲ以テ他人ノ住居スル家屋
ヲ燒燬シタル者ハ如何○第四百二條ニハ單ニ人ノ住居
シタル家屋ヲ燒燬シタル者云々トアリテ其家屋所有權
ノ自他ニ屬スルヲ問ハス故ニ現ニ人ノ住居シタル家屋
ナルトキハ其所有權犯人ニ屬スルトキト雖モ仍ホ本條
ノ正面ニ該ラス必スシモ第四百二條ニ依テ處斷セサル
ヘカラサルナリ

〇第二 戸主現ニ其住居スル所ノ所有家屋ヲ燒燬シタ

第四百七條

テ驚怖ノ念ヲ抱カシムルモノナレハ亦公ヲ害スルナシトセス故ニ本條之ヲ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處スヘシト定メタリ

〇第一 賃賃質入等ノ名義ヲ以テ他人ノ住居スル家屋ヲ燒燬シタル者ハ如何○第四百二條ニハ單ニ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者云々トアリテ其家屋所有權ノ自他ニ屬スルヲ問ハス故ニ現ニ人ノ住居シタル家屋ナルトキハ其所有權犯人ニ屬スルトキト雖モ仍ホ本條ノ正面ニ該ラス必スシモ第四百二條ニ依テ處斷セサルヘカラサルナリ

〇第二 戸主現ニ其住居スル所ノ所有家屋ヲ燒燬シタ

ルトキハ如何○第四百二條ニ所謂人トハ自己ニ對スル
 ノ語ナリ故ニ戶主現キ其住居スル所ノ家屋ヲ燒燬シタ
 ルトキハ本條ニ依テ處斷セサルヘカラス是レ能ク其理
 ニ適スルモノナリ何トナレハ己レ之ニ住居スルモ火ヲ
 放ツ者ハ即チ己レナレハ之カ爲メ人ノ身體生命ヲ危フ
 スルノ恐レアラサレハナリ然レトモ親屬雇人等之ニ住
 居スルトキハ則チ第四百二條ニ依テ處斷セサルヘカラ
 ス是レ此場合ニ於テハ自ラ害ヲ被アルニ止マラスシテ
 人即チ親屬雇人等ノ身體生命ヲ危フスルノ恐レアレハ
 ナリ然レトモ若シ戶主ニ於テ其家ニ住居スル者ヲ外出
 セシメ若クハ其外出スルヲ待テ之ヲ燒燬シタルトキハ
 第四百二條ニ依テ處斷スルヲ得サルヘシ何トナレハ危

フスヘキノ身體生命アラサレハナリ此ノ項ヲ草スルニ
 際リ第四百二條ノ

ノ釋義ニ之ヲ知スヘシ附錄ニ之ヲ知スヘシ本節

八四二

○第三 自己ノ所有ニ屬スルト雖モ現ニ他人ノ占有ス
 ル所ノ家屋其他ノ建造物ニシテ人ノ住居セサルモノチ
 燒燬シタル者ハ如何○第四百二條ハ人ノ身體生命ニ危
 害ヲ生スルヲ以テ主ト爲ス故ニ其家屋ノ我レニ屬スル
 ト彼レニ屬スルトチ問フヘカラスト雖モ第四百二條以
 下ハ專ラ財産上ノ損害ニ基ク故ニ其燒燬シタル所ノ家
 屋建造物犯人ノ所有ニ屬スルトキハ第四百三條ニ依テ
 之ヲ處斷スルコト能ハス其他人ノ動産ヲ燒燬スルノ意
 チ以テシタル者ハ本條ト毀棄器物條トニ照シ一ノ重キ
 ニ從テ處斷スヘキナリ

ノ分權ヲ與フルモノナリト雖モ犯人ハ依然之カ所有主
タリ故ニ法ニ明文ナキ以上ハ本條ニ依テ處斷スルノ外
他ニ適條アラサルナリ然レトモ第三百九十五條ノ權衡
ヲ延テ之ヲ論スルトキハ他人ノ家屋ヲ燒燬シタル者ノ
如ク嚴罰スルニ及ハサルモ必スヤ通常自己ノ家屋ヲ燒
燬シタル者ヨリ重カラサルヘカラス因テ此點ハ立法官
ニ於テ増定セラレシコトヲ希望ス草案第四百五十條ニ
曰ク火災ノ保險ニ付シ又ハ抵當及ヒ典物ト爲シタル物
件ニ放火シタル者ハ自己ノ所有ニ係ルト雖モ他人ノ所
有物ト同ク論スト是レ少ク嚴ニ失スヘシ何トナレハ此

○第四 他人ニ書入レ又ハ質入レシタル家屋建造物ヲ
燒燬シタル者ハ如何○不動產書入レトハ債主ニ所有權
ノ如キ場合ニ於テハ其燒燬ノ所爲直チニ債主ヲ害スル
ト雖モ而モ之カ爲メ債主其權利ヲ失フニ非ス唯其權利
ノ保證ヲ失フニ過キサレハナリ故ニ余ハ之ヲ以テ他人
ノ所有物ト同フセス唯刑ヲ加重セラレシコトヲ希望ス
○第五 火災ノ保險ニ付シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ
如何○火災ノ保險ニ付シタル家屋ヲ燒燬シテ其金額ヲ
領收セントスルハ通常自己ノ家屋ヲ燒燬スル者ノ比ニ
非ス然レトモ金額ヲ保險會社ヨリ受取ランカ爲メ家屋
ヲ燒燬スルハ一ノ詐欺取財ノ手段ニシテ之カ爲メ保險
會社ヨリ金額ヲ騙取シタルトキハ之ヲ詐欺取財トシテ
罰スヘク若シ之ヲ騙取セサルトキハ毫モ保險會社ニ損
害ヲ加フルモノニ非サレハ特ニ之ヲ嚴罰スルニ及ハサ

ルナリ右ニ掲ケタル所ノ草案第四百五十條ニ於テハ此
 レモ亦他人ノ所有物ト同ク論スヘシト定メタリキ余之
 ニ甘服スルヲ得ス何トナレハ此ノ如キ場合ニ於テハ保
 險會社ヨリ金額ヲ騙取シタルニ非サルヨリハ敢テ他人
 ニ害ヲ加フルモノニアラサレハナリ或ハ曰ハソ保險會
 社ニ於テ當時其放火タルコトヲ知ラスシテ金額ヲ渡シ
 タルトキハ後ニ其事ヲ發覺スルモ既ニ其害ヲ回復スル
 能ハサルニ至ルヘシ此ノ如キ大害ヲ與ヘタル者ヲ罰ス
 ルニ通常詐欺取財ノ刑ヲ以テスル足レリトセス故ニ火
 災ノ保險ニ付シタル家屋モ亦他人ノ所有物ヲ以テ論ス
 ル方可ナリト非ナリ實ニ保險會社ハ之ガ爲メニ大害ヲ
 被フルコトアルヘシト雖モ其害ノ大ナルカ爲メ詐欺取

財ノ刑ヲ加ヘテ重罪ト爲スハ法理ノ詐サ、ル所ナルヘ
 シ假ニ一步ヲ讓リ其害大ナルトキ之ヲ重罪トシテ罰ス
 ルヲ得ルト爲スモ仍ホ其説ニ從フヘカラス何トナレハ
 火災ノ保險ヲ付シタル家屋ヲ燒燬シタルノ所爲ハ特立
 シテ保險會社ヲ害スルモノニ非ス之ニ放火シタルモ會
 社ニ告シルニ其實ヲ以テスルニ於テハ全ク其害ヲ生ス
 ルコトナシ乃チ害ヲ會社ニ加フルモノハ放火ノ所爲ニ
 非スシテ會社ニ向テ欺罔スルノ致ス所ナリ然ラハ放火
 チ僞テ然ラスト欺キタル所爲ヲ嚴罰スヘシ放火ノ所爲
 チ嚴罰スヘカラサルナリ故ニ余ハ保險ニ付シタル家屋
 チ燒燬シタル者ハ本條ニ依テ處斷スルヲ以テ足レリト
 爲ス

〔三〕〇或問テ曰ク本條ニハ火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタルモノトアリ家屋ノ中ニ第四百二條乃至第四百四條ニ記載シタル物件ヲ包含スヘシト雖モ第四百五條及ヒ第四百六條ニ記載シタル物件ハ之ヲ包含セサルカ如シ如何ト曰ク船舶氣車山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木ノ類ハ之ヲ家屋トイフ能ハサルヤ因ヨリ明カナリ今立法官ニ於テ此等ノ物件ハ之ヲ燒燬スルモ其所有權自己ニ屬スルニ於テハ之ヲ罰セスト定メタルモノハ是レ多クハ他ニ延燒スルノ憂ナク且人ヲシテ驚怖ノ念ヲ抱カシムルコトナシト爲シタルカ故ナラン是レ決テ其理ナキニ非ス然レトモ人ニ書入レ若クハ貸與シタル物件ヲ燒燬シタル者ニ至テハ法律上之ヲ罰スルノ

理由アリ故ニ此點モ亦速ニ補定セラレノコトヲ希望ス
左ニ本條ノ改正案ヲ示サン

第四百七條

火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
其家屋抵當典物ト爲シタルモノナルトキハ二等ヲ加フ

前二條ニ記載シタル物件自己ノ所有ニ屬スルトキト雖モ既ニ抵當典物ト爲シタルモノヲ燒燬シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

〔三〕〇或問テ曰ク本條ノ罪ニ加功シタル他人ノ擬律如何ト曰ク此點ハ四箇ニ別テ之ヲ論スヘシ

第一 他人所有主ノ從犯ナルトキ○從犯ハ自ラ手ヲ下
 スモノニ非ス唯豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助スルニ過
 キス故ニ本條ノ刑ヨリ一等ヲ減シテ之ヲ罰スヘキナリ」
 第二 他人所有主ヲ強制シテ火ヲ放タシメタルトキ又
 ハ他人ノ教唆ヲ受ケタル所有主十二歳未滿ノ幼者タル
 トキノ如ク全ク他人ノ器械タルニ過キサルトキ○此場
 合ニ於テハ所有主ハ一ノ器械タルニ過キス即チ他人自
 ラ火ヲ放チタルニ同シケレハ人ノ家屋ヲ燒燬シタル者
 ナ以テ論スヘキナリ

第三 他人所有主ヲ教唆シ又ハ所有主他人ヲ教唆シタ
 ルトキ○此場合ハ實際殆ト稀ナリ然レトモ亦全ク之レ
 ナキヲ保セ「フオースタヴ、エリ」氏刑法論ハ所有主他人ヲ

教唆シタルトキハ何レモ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ヲ
 以テ論スヘシト説キ之カ反對ノ場合ヲ論セス「ボワツナ
 ド」先生ハ少ク酷ニ失スルカ如シト雖モ一般ノ道理ニ基
 キ他人教唆者タルト所有主教唆者タルトニ論ナク所有
 主ハ本條ニ依テ處斷シ他人ハ人ノ家屋ヲ燒燬シタル者
 ナ以テ論スヘシト説ケリ余思フニ此場合ニ於テハ何レ
 モ本條ニ依テ之ヲ處斷スヘキナリ何トナレハ所有主他
 人ヲ教唆シテ火ヲ放タシメタルトキ之カ爲メ其罪ノ性
 質ヲ變スルノ理ナキハ勿論他人所有主ヲ教唆シタルハ
 是レ所有主ヲシテ自己ノ家屋ニ火ヲ放タシムルコトヲ
 教唆シタルニシテ之カ爲メ其罪ノ性質ヲ變スルノ理ア
 ラサレハナリ

第四 所有主ト他人ト共ニ手ヲ下シタルトキ○此場合
 モ亦「ボソソナド」先生ノ説ニ依ルトキハ所有主ト他人ト
 其刑ヲ異ニセサルヘカラス余思フニ此場合ニ於テハ他
 人ノ火ヲ放テタルハニニ所有主ノ意思ニ出テタルト否
 トヲ區別シ所有主ノ意思ニ出テタルトキハ本條ニ依テ
 處斷シ否ラスシテ他人特立シテ家屋ヲ燒燬スルハ意思
 ニ出テタルトキハ他人ノミ人ノ家屋ヲ燒燬シタル者ヲ
 以テ論スヘシ何トナレハ第一ノ場合ニ於テハ他人所有
 主ノ自己ノ家屋ヲ燒燬スルノ罪ニ加功シタルモノナレ
 トモ第二ノ場合ニ於テハ他人々ノ家屋ヲ燒燬シタルコ
 シテ所有主ノ之ニ加功シタル如キモノナレハナリ然レ
 トモ所有主ハ之ヲ嚴罰セス是レ自己ノ家屋ヲ燒燬シタ
 ルニ過キサレハナリ

○佛刑法第四百三十四條

全文ヲ掲ク

第四百八條

放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年
 以下ノ監視ニ付ス

○本條ハ放火ノ罪ヲ犯シタル者ハ輕罪ノ刑ニ處スルト
 キト雖モ仍ホ之ヲ監視ニ付スル旨ヲ定ム
 放火ノ罪ハ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ヲ除クノ外皆ナ
 重罪ナリ然レトモ減輕ニ因リ之ヲ輕罪ノ刑ニ處スルコ
 トナキニ非ス而シテ放火ノ罪ハ世安ヲ害スル大ニ且之
 ヲ實際ニ徵スルニ再犯ノ恐れ極メテ多シ故ニ特ニ本條
 ヲ設ケタリ

第四百九條

火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ失火ノ罪ヲ定ム

失火ノ放火ニ於ケルハ恰モ過失殺ノ謀故殺ニ於ケルカ如シ唯其結果ノ大ナル有ルヲ以テ其疎虞懈怠ヲ罰スルニ過キス故ニ其刑罰金ニ止メタリ
失火ノ罪ハ其燒燬シタル所ノ家屋物件他人ノ所有ニ屬スルトキニ非サレハ成立セズ故ニ其家屋タル現ニ他人ノ住居シ又其物件タル現ニ他人ノ占有スルモノト雖モ失火人ノ所有ニ屬スルトキハ失火人唯民事損害ノ責ニ任スヘキノミ本條ノ正面ニ當ラサルナリ

或問テ曰ク本條ニ所謂財産トハ其性質種類ノ何タルヲ問ハサルモノナル乎ト曰ク失火ハ放火ハ本節ニ依テ罰スニ依テ罰ハスルモノト異ナリテ其害ノ殊ニ大ナルモノニ限ラサルヘカラス故ニ第四百五條及ヒ第四百六條ニ記載シタル物件ヲ燒燬シタルトキハ之ヲ罰スヘキモ他ノ財産ヲ燒燬シタルトキハ唯民事賠償ノ責アルニ過キサリナリ

或問テ曰ク火ヲ失シテ自己ノ家屋財産ヲ燒燬シ延テ他人ノ家屋財産ニ及ホシタルトキハ如何ト曰ク有意犯ハ

唯其結果ノミニ因テ直チニ論斷スヘカラスト雖モ無意

犯ハ趣チ其結果ニ咨テ可ナリ故ニ人若シ疎虞懈怠ニ因リ火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒毀シタルトキハ其直接

ニ出ツルト間接ニ之ニ及ホシタルトテ問ハス必スシモ
本條ニ依テ處斷セサルヘカテサルナリ

○佛刑法第四百五十八條 他人ノ動産不動産ニ接近シ
タル竈、煖爐、鑄造所、家屋又ハ工作場ノ朽廢シタルニ
因リ又ハ其修繕若クハ掃除ヲ怠リタルニ因リ又ハ
家屋、建造物、森林、草叢、樹木、菓樹植附場、樹木植附場、塙
籬、稻束、堆積シタル穀物、藁、枯草、藪藁又ハ其他燃質物
ノ貯藏所ヨリ百「メートル」以内ノ所ニテ田野ニ於テ
火ヲ燃ヤシタルニ因リ又ハ充分ナル注意ナクシテ
火或ハ燈火ヲ携帯シ或ハ之ヲ棄置クニ因リ又ハ懈
怠若クハ不注意ニテ烟火ヲ燃ヤシ若クハ發シタル
ニ因リ他人ノ動産又ハ不動産ヲ燒毀シタルトキハ

五十「フランク」以上五百「フランク」以下ノ罰金ニ處セ
ラルヘシ刑九、五ニ以下、四七一、
四七九、治一七九、

第四百十條

火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破烈セ
シメテ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ル
ト過失トヲ分テ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

○本條ハ放火失火ニ準スヘキ罪ヲ定ム

放火ノ方法出火ノ原因其如何ニ在ルヲ問ハスト雖モ煤
氣井蒸氣罐及ヒ火藥其他激發スヘキ物品ハ其性質尤モ
危険ニシテ其破烈縱ヒ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタルニア
ラサルモ既ニ之ヲ毀壞シタルヤ其害敢テ放火出火ニ讓
ラス是レ第四百十七條以下ニ抽テ茲ニ本條ヲ設ケタル

第四百十條

所以ナリ

本條ノ罪ハ其故意ニ出テタルト過失ヨリ來リタルトナ
區別シ放火失火ノ例ニ照シテ處斷スルモノナレハ復タ
開說ノ要スヘキナシ總テ前數條ノ譯義ヲ參酌併攷シテ
可ナリ

○佛刑法第四百三十五條 地雷火ヲ用ヒ建造物船舶倉

庫物置等ヲ毀壞シタル者ニ對シテハ前條ニ定メタ

ル區別ニ從ヒ其刑同一ナリ刑九五、三四

○

附言

著者曰ク第四百七條ノ下ニ於テ戶主其家ニ住居スル
雇人等ヲ盡ク外出セシメ又ハ其外出スルヲ待テ其所

有家屋ヲ燒燬シタル者ハ如何ニ處スヘキ乎ノ問題ヲ
設ケ之カ解ヲ付スルニ際リ道理上此場合ニ於テハ第
四百二條ニ依テ處斷スヘカラスト決セサルヲ得サル
ヲ感シタリ於是乎第四百八條ノ下ニ於テ高木氏ノ說
ニ左袒シ人ノ住居スル所ノ家屋ハ時ニ偶住人他出シ
テ裡ニ在ラサルモ仍ホ之ヲ以テ人ノ住居シタル家屋
ト爲スヘシト說キタルノ不當ナルヲ知レリ

佛文案第四百四十五條ニハ佛法ト同ク人ノ住居シ
又ハ人ノ住居ニ供スル云々トアリシヲ以テ無論住人
ノ裡ニ在ルト否トヲ問フヘカラスト雖モ第四百二條
ニハ單ニ人ノ住居シタル家屋云々トアルニ過キサレ
ハ放火ノ當時人其裡ニ在ラサリシトキハ第四百二條

第四百十條

ニ依テ處斷スヘカラスト解スルヲ得ヘシ余ハ此ノ如ク解スルノ却テ能ク其理ニ適スルヲ覺ユ何トナレハ人其裡ニ在ラサルトキハ危フスヘキノ身體生命ナク從テ之ニ死刑ヲ適用スルノ理由アラサレハナリ

第八節 決水ノ罪

○本節凡テ四條決水ノ罪ヲ定ム
決水トハ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シ又ハ水利ヲ妨害スル等ナイフ是等ノ所爲ハ放火ニ亞テ其害亦鮮少ナラス故ニ特ニ本節ヲ設ケ之ヲ嚴罰シタリ

第四百十一條

堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解附 本項ヲ改正スヘキノ説○何故ニ本項ノ罪之ヲ無期徒刑ニ止メタル乎

三 第二項ノ解○本項ニハ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲモ包含スル乎

〔一〕○本條ハ決水ニ因リ家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二二〇〕第一項 本項ハ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ノ罪ヲ定ム

堤防水閘皆ナ水ヲ防クノ具ナリ然ルニ人之ヲ潰決又ハ毀壞シ水ヲシテ奔逸セシメ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失スルトキハ恰モ放火ト同ク貴重ナル財産ヲ損スルハ勿論亦人ノ身體生命ヲ危フスルモノナリ故ニ本項之ヲ無期徒刑ニ處スヘシト定メタリ

本項ノ罪ハ第四百二條ノ放火罪ト同ク三箇ノ條件ヲ必要ト爲スモノナリ

第一條件 人ノ住居シタル家屋ナルコト○此條件ハ竊ニ第四百二條ノ下ニ於テ放火罪ニ付キ開説シタル所ニ同シ故ニ玆ニ贅セス

第二條件 人ノ住居シタル家屋漂失シタルコト○放火罪ニ付キ家屋ノ燒燬ヲ必要ト爲スト同ク決水罪ニ付テハ家屋ノ漂失ヲ必要ト爲スモノナリ故ニ堤防水閘ヲ決潰毀壞シタリト雖モ家屋爲メニ漂失セサルトキハ本條ノ罪成立セサルナリ

漂失トハ何ソヤ漂ハ流ナリ浮ナリ失ハ亡ナリ漂失ハ猶ホ流亡トイフカコトシ故ニ溢水汎濫家屋ヲ浸スアルモ爲メニ流亡セサルトキハ漂失ト謂フヘカラサルナリ

第三條件 故意ヲ以テシタルコト○第四百十四條ノ過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス云々ヲ參觀スレハ本項ノ罪ハ故意ヲ以テ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シタルヲ要スルヤ固ヨリ明カナリ然レ

トモ其故意以テ既ニ本條ノ罪ヲ構造スルニ充分ナル乎
 將タ尙ホ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失スルノ意アルヲ必
 要ト爲ス乎ノ點ニ至テハ未ダ速斷シ易カラス前ニ放火
 ノ罪ニ付テハ當ニ火ヲ放ツコトノ故意ニ出テタルヲ必
 要ト爲スノミナラス亦人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬スル
 ノ意アルヲ必要ト爲スモノト論シタリ然レトモ今決水
 ノ罪ニ付テハ爰ニ聊カ疑訝ナキ能ハス

村田氏刑法註釋曰ク堤防及ヒ水閘ヲ設クル所以ノ者ハ畢竟
 水害ヲ豫防シ水利ヲ導クカ爲メナリ若シ水勢漲漫ノ際
 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞スルトキハ其害ノ及フ所豫メ
 圖リ知ル可カラス假令其目的人ニ損害ヲ加フニアラサ
 レトモ決水ノ爲メ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル時

ハ之ヲ無期徒刑ニ處ス云々ト小笠原氏刑法註釋ハ其説ヲ同
 フスル者ノ如シ又高木氏刑法註釋ハ決水ヲ以テ水害ヲ致ス
 ハ猶ホ放火以テ火災ヲ致スコトシ唯其財産ニ對シテ多
 少ノ損害ヲ加フ而已ナラス又人命ヲ戕害スルノ虞レア
 ルモノナリ故ニ假令人ノ身體ニ對シテ害ヲ致スヲ以テ
 目的ト爲サス又人命ノ戕害ヲ致サルモ苟クモ人ノ住
 居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ其危險頗ル大ナルモノ
 トス故ニ之ヲ決水至重ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處スルナ
 リト論セリ其言人ノ住居シタル家屋ヲ漂失スルノ意ア
 ルヲ必要ト爲スノ意ヲ明カニセスト雖モ暗ニ其脉動ア
 ルモノ、如シ
 村田氏ノ所説ハ理ニ於テ間然スヘキモノナキカ如キヲ

以テ今姑ク之ヲ是ナリトシテ因テ生スル結果ノ不都合
ヲ論セン

例ヘハ茲ニ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シタル者アリ
若シ之カ爲メニ人ノ住居シタル家屋漂失シタルトキハ
村田氏ノ説ニ從ヒ之ヲ無期徒刑ニ處スル敢テ妨ケナシ
ト雖モ若シ人家漂失セサリシトキハ如何處斷スヘキ乎
必スシモ未遂犯罪ヲ以テ論セサルヘカラサルヘシ然ラ
ハ何ノ未遂犯トシテ可ナル乎或ハ曰ク決水ノ罪ハ毆打
ノ罪ノ如ク之カ未遂犯ナシ即チ人ノ住居シタル家屋ヲ
漂失シタルトキハ本項ニ依リ人ノ住居セサル家屋ヲ漂
失シタルトキハ次項ニ依リ又田圃等ヲ荒廢シタルニ止
マルトキハ次條ニ依リ總テ其現ニ生シタル所ノ結果ニ

從ヒ之ヲ處斷スヘキナリト果シテ此ノ如クハ唯堤防
ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ未ダ一害ヲモ生セサル者ハ如何
スヘキ乎毆打ノ罪ニ付テハ人ヲシテ疾病休業ニ至ラシ
メサル者モ猶ホ且之ヲ罰セリ然ルニ單ニ堤防ヲ決潰シ
水閘ヲ毀壞シタル者ヲ罰スルノ法アラサレハ必スシモ
之ヲ釋サ、ルヘカラサルヘシ彼レ罪アリ彼レ世安ヲ害
シタリ豈ニ之ヲ不問ニ付シテ可ナランヤ又之ヲ未遂犯
罪トシテ罰スヘシト爲スモ本人ノ意思ヲ問フニ非サル
ヨリハ本項ノ未遂犯罪ト爲サン乎次項ノ未遂犯罪ト爲
サン乎將ダ次條ノ未遂犯罪ト爲サン乎適トシテ其據ヲ
知ルニ由ナシ然ラハ其意思ヲ問フモノト爲サン乎放火
ノ場合ニ可ナルモ決水ノ場合ニ可ナラス

放火ハ特定ノ家屋等ニ火ヲ放ツモノニシテ其他ノ家屋
 ノ燒燬セラル、ハ是レ延テ而シテ然ルモノナリ故ニ或
 ル家屋ニ放火シタルトキハ其家屋ヲ燒燬スルノ意アル
 モノトシ而シテ他ノ家屋延燒シタルトキハ犯人之ヲ燒
 燬スルノ意アルトキニ限り之ヲ嚴罰スルモノニシテ能
 ク其理ニ適スルト雖モ決水ノ罪ハ特定ノ家屋ニ對シ直
 接ニ之ヲ漂失スルノ所爲ヲ行フニ非スシテ堤防ヲ決潰
 シ又ハ水閘ノ毀壞シ因テ以テ家屋ヲ漂失セシムルモノ
 ナリ故ニ若シ犯人ノ意思ヲ問ヒ人ノ住居シタル家屋ヲ
 漂失スルノ意ナキトキハ本項ニ依リ之ヲ罰スルヲ得ヌ
 又毫モ實害ヲ生セサルトキハ全ク之ヲ罰スルヲ得ヌト
 爲スハ恐クハ實際ニ背馳スルモノナラン然ラハ今日ニ

水閘ノ毀壞ニ由リテ
 家屋ヲ漂失スルモノ
 ナリ故ニ若シ犯人ノ
 意思ヲ問ヒ人ノ住居
 シタル家屋ヲ漂失ス
 ルノ意ナキトキハ本
 項ニ依リ之ヲ罰スル
 ヲ得ヌト爲スハ恐ク
 ハ實際ニ背馳スルモ
 ノナラン然ラハ今日
 ニ

在テハ如何ニ之ヲ解釋シテ可ナル乎今法文ニ依ルトキ
 ハ犯人ニ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失スルノ意アルヲ要
 スルモノト論セサルヘカラスト雖モ此ノ如キハ全ク其
 理ニ反スルモノナレハ道理ニ基キ唯堤防ヲ決潰シ水閘
 ヲ毀壞スルニ故意ヲ要スルノミ人家漂失ハ其當然ノ結
 果ナレハ若シ此結果ヲ生出シタルトキハ犯人必スシモ
 其實ニ任せサルヘカラスト爲シ而シテ未遂犯罪ノ場合
 ニ於テハ地勢其他ノ模様ニ因リ人ノ住居シタル家屋ヲ
 漂失スルノ恐レアルヤ將タ人ノ住居セサル家屋其他ノ
 建造物ヲ漂失スルノ恐レアルニ過キサルヤヲ判定シ以
 テ其本刑ヲ定メ而シテ減輕ヲ爲スモノト解セサルヘカ
 ラサルヘシ然レトモ此ノ如キハ法ノ正解トイフ能ハサ

レハ余ハ立法官ニ向テ洪水ノ罪ヲ左ノ如ク定メラレシ
コトヲ希望ス

第四百十一條

堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シタル者ハ二月以上五
年以下ノ重禁錮ニ處ス

因テ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ死刑ニ處
シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者
ハ重懲役ニ處シ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕
懲役ニ處ス

懲役ニ處ス

○或問テ曰ク何故ニ本項ノ罪之ヲ無期徒刑ニ止メタル
乎ト高木氏刑法曰ク洪水ノ害ハ殆ト放火ノ害ニ同シト
云ヘリ而カモ其害ヲ致ス放火ノ如ク酷シカラヌ又放火

ノ如ク行ヒ易カラス蓋シ洪水ノ事タル放火ノ如ク何レ
ノ時何レノ所ヲ問ハス容易ニ爲シ得ヘキモノニ非サル
ナリ是レ其放火至重ノ罪ハ之ヲ死刑ニ處シ洪水ノ罪ハ
之ヲ無期徒刑ニ止ムル所以ナリト是レ或ハ立法者ノ取
テ以テ本項ノ刑ヲ定ムルノ理由ト爲シタルモノナルヘ
シト雖モ余ハ其刑ノ輕キヲ覺ユルナリ實ニ洪水ノ罪ハ
何レノ時何レノ所ヲ問ハス之ヲ行ラテ得ルモノニ非ス
然レトモ一旦其害ノ起ルヤ其禍放火ニ讓ラスシテ却テ
之レヨリ大ナルモノアリ放火能ク人ノ身體生命ヲ危フ
ス而シテ人亦能ク之ヲ避ク降水汎濫陵ニ襲リ家ヲ漂失
スルトキニ至テ誰カ復タ焚燭赫烈ニ加フルナシトイフ
乎危險震駭孔々甚シキモノアリ豈之ヲ放火ノ罪ヨリ輕

フスルヲ得ンヤ縦ヒ數歩ヲ讓テ之ヲ放火ト同ク罰スヘ
カラスト爲スモ安ンソ夫ノ船舶覆没ノ罪ト同ク人ヲ死
ニ致シタルトキハ死刑ニ處スルヲ得サルノ理アラシヤ
是ヲ以テ余ハ前ニ改正案ヲ作テ死刑ニ處スヘシト爲セ
リ

〔三〕〇第二項 本項ハ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ

漂失シタル者ノ罪ヲ定ム

本項ニ付テモ亦前項ト同ク故意ノ點ニ付キ困難アリ然
レトモ未ダ其改正ナキ間ハ必スシモ前項ト同ク之ヲ解
セサルヘカラサルナリ
或問テ曰ク放火ノ罪ニ付テハ人ノ住居シタル家屋ヲ燒
燬シタル者ト人ノ住居セサル家屋ヲ燒燬シタル者トノ

間僅ニ一等ノ差ヲ設ケタルニ過キス然ルニ本項ノ刑前
項ノ刑ヨリ輕キコト二等ナルハ抑何ソヤト曰ク本項モ
亦堤防決潰水岡毀壞ノ結果ヲ定メタルニ過キス故ニ之
ヲ重ク罰スルニ及ハサルナリ何トナレハ放火ノ結果ハ
多クハ之カ際限ナシ故ニ人ノ住居セサル家屋ヲ燒燬シ
タルトキト雖モ或ハ人ノ住居シタル家屋ニ延燒シ人ノ
身體生命ヲ危フスルノ恐レアリト雖モ決水ノ場合ニ於
テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ノミ漂失シタルト
キハ多クハ水勢地形ノ然ラシムルニシテ固ヨリ人ノ住
居シタル家屋漂失スヘカラサルモノナリ故ニ其害小ナ
レハナリ是ヲ以テ余ノ改正案ニモ亦此種ノ罪ハ重懲役
ニ處スヘシト爲セリ

○或問テ曰ク本項ニ所謂人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ノ中ニハ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲモ包含スル乎ト曰ク人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物トハ其包含スル所極メテ廣シ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ハ固ヨリ其中ニ在リ第四百三條ニ此等ノモノヲ包含セサルハ第四百四條ヲ以テ之ヲ取除キタルカ故ニシテ建造物中ニ此等ノモノヲ包含セサルカ故ニ非サルナリ

○佛刑法第四百三十七條 第四百十七條ニ全文ヲ掲ク

第四百十二條

堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

○本條ハ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ノ罪ヲ定ム

本條ノ結果ハ之ヲ前條ノ結果ニ比スルニ其害小ナリ故ニ其刑亦之ヲ輕懲役ニ止メタリ

本條ニ付テモ亦前條ニ付テ生出シタル所ノ困難ヲ見ルヘシ既ニ前條ノ下ニ於テ開説シタル如ク法ノ改正ナキ以上ハ前條ノ如ク解セサルヘカラサルナリ

○佛刑法第四百五十七條 水車工作場又ハ池沼ノ収益ヲ爲ス所有主借地人其他ノ者當該官署ニ於テ定メタル高サ以上ニ水口ヲ高メタルニ因リ道路若クハ他人ノ所有地ニ水ヲ流溢セシメタル者ハ物件返還損害賠償ノ四分ノ一以下五十「フランク」以上ノ罰金

第四百十二條

ニ處セラレヘシ

右ノ所爲ニ因リ或ル毀損ヲ生シタルトキハ其刑ハ

罰金ノ外六日以上一月以下ノ禁錮タルヘシ刑九、四、

五二以下、四、六
二、治一七、九、六

第四百十三條

他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ
決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月
以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス

○本條ハ他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ
水利ヲ妨害シタル者ノ罪ヲ定ム
本條ノ罪ヲ構成スルニハ二箇ノ條件ヲ必要ト爲ス曰ク

堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害スルコト曰
ク他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ルコト是レナ
リ

第一條件 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他壅塞排洩等
ノ所爲ヲ以テ水利ヲ妨害スル是レ本條ノ罪ノ本體ナリ
故ニ此等有形ノ所爲ヲキトキハ本條ノ罪成立セサルナ
リ

第二條件 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害
シタリト雖モ其他人ノ便益ヲ害シ自己ノ便益ヲ圖ルカ
爲メニ非サルトキハ本條ノ正面ニ當ラス本條特ニ他人
ノ便益ヲ害シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メト書シタルモ
ノハ是レ本條ノ罪ハ自己ノ田畝ノ灌溉ニ當テント欲シ

テ他田ノ水ヲ潰シ又ハ專ラ自己ノ便益ヲ圖リ公衆ノ爲
メニ設ケタル堤防ヲ決シ或ハ水流ヲ壅塞シテ水勢ヲ瀾
漫セシメ他人ノ水利ヲ妨害シタルノ所爲ノミヲ罰スル
旨ヲ明カニセンカ爲メナリ其他人ノ便益ヲ損スルトハ
他人ノ水利ヲ損スルノ謂ニシテ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀
壞シテ新ニ他人ニ害ヲ加フルノ謂ニ非ス故ニ若シ他人
ノ水ニ因テ當然得ル所ノ利益ヲ損シタルニ非スシテ他
人ニ對シ他ニ損害ヲ加ヘタルトキハ前二條ニ依テ處斷
セサルヘカラサルナリ

或問テ曰ク然ラハ之カ爲メ家屋建造物ヲ漂失シ又ハ田
圃等ヲ荒廢シタルトキハ如何スヘキ乎ト曰ク此場合ニ
於テハ其結果タル全ク犯人ノ意想外ノモノナリ故ニ前
二條ニ因テ處斷スルヲ得ヌ是レ能ク其當ヲ得タルモノ
ナリ

第四百十四條

過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處
斷ス

○本條ハ過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ノ罪ヲ定ム
過失ニ因テ水害ヲ起シタル者トハ例ヘハ水勢瀾漫ノ際
水閘看守ノ任アル者懈テ其毀壞セラレ、ヲ知ラサリシ
トキ又ハ水ヲ引カンカ爲メ堤防ニ竇穴ヲ穿テ因テ其決
潰ヲ致シタル者ノ類ナイツ是等ハ故意以テ水害ヲ起シ
タルニ非スト雖モ疎虞懈怠ノ責アリ且其害ノ及フ所大
ナルカ故ニ失火罪ノ例ニ照シテ處斷スヘシト定メタリ

第四百十四條

或問テ曰ク本條ニ所謂水害トハ第四百十一條及ヒ第四百十二條ニ所謂水害ヲイフ乎將タ第四百十三條ニ所謂損害ヲモ亦之ヲ包含スル乎ト曰ク前條ニ所謂損害即チ他人ノ水利ヲ害シタルコトハ本條ニ所謂水害ノ中ニ包含セス何トナレハ水害トハ他人ノ水利ヲ害スルノ謂ニ非スシテ決氷以テ他人ヲ害スルノ謂ナレハナリ況ヤ前條ノ罪ハ僅カコ一月以上二年以下ノ重禁錮及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ該ルヘキ輕罪ナリ故ニ此害ヲ生シヌリト雖モ元ト過失ニ基クトキハ之ヲ罰スルノ要アラサレハナリ

第九節 船舶ヲ覆沒スル罪

○本節凡テ二條船舶ヲ覆沒スル罪ヲ定ム
 船舶ヲ覆沒スルトハ衝突其他ノ所爲ヲ以テ船舶ヲ覆沒スルヲイフ而シテ其直接ニ船舶ヲ覆沒スヘキ所爲ヲ行ヒ以テ之ヲ覆沒シタルヲ要ス故ニ第六十九條ニ定メタル所爲ヲ行ヒ覆沒ニ至ラシメタル者ハ本節ノ干知スル所ニ非サルナリ

第四百十五條

衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆沒シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

○本條バ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆沒シタル者ノ罪ヲ定

衝突トハ他ノ船舶等ト衝突スルヲイヒ其他ノ所爲トハ
 暗礁又ハ巖石ニ乗リ上ケ又ハ船體ヲ穿テ其他船舶ニ必
 要ナル機械ヲ損壞スルノ類チイフ此等ノ所爲ヲ以テ人
 チ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死亡ノ有無ヲ區別
 シ死亡アルトキハ死刑ニ處シ死亡ナキトキハ無期徒刑
 ニ處スヘシト定メナリ彼ノ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ
 保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐欺ノ標識ヲ點示シ因テ船
 舶ヲ覆没ニ至ラシメタル者ハ第六十九條ニ依テ處斷
 スヘク本條ノ正面ニ當ラサルナリ
 本條ニ但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處スト定メタル
 ハ編纂其宜キヲ得タルモノニ非サルヘシ是レ船中死亡
 ナキトキノ刑即チ本刑ニシテ死亡アルトキハ其刑ヲ加

重スルモノナレハ本條ヲ改メ云々船舶ヲ覆没シタル者
 ハ無期徒刑ニ處ス但船中死亡アル時ハ死刑ニ處スト定
 メラレンコトヲ希望ス
 或曰ク本條ハ死刑ヲ以テ本刑ト爲シ若シ船中ニ死亡ナ
 キトキハ其刑ヲ輕減スルモノナリト非ナリ此ノ如ク解
 スルトキハ實際殆ト解クヘカラサル支障ヲ生出スヘシ
 何トナレハ未遂犯罪ノ場合ニ於テハ死刑ヨリ一等又ハ
 二等ヲ減セサルヘカラス若シ僅ニ一等ヲ減シタリトセ
 ン乎既ニ船舶ヲ覆没シテ船中死亡ナキ者ノ刑ト或ハ之
 チ遂クルモ船中死亡ナキヤモ知ルヘカラサル罪ノ未遂
 犯ノ刑ト輕重ナキニ至レハナリ故ニ無期徒刑ヲ以テ本
 刑ト爲シ船中死亡アルトキハ其刑ヲ加重スルモノト爲

サ、ルヘカラス第百六十九條ニ白ク云々船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處スト能ク其當ヲ得タルモノナリ

或曰ク或ハ然ラン然レトモ今日ニ在テハ死刑ヲ以テ本刑ナリト解セサルヘカラサルヘシト今日ニ在テハ此ノ如ク解セサルヘカラサルニ似タリ然レトモ余思フニ是レ唯編纂其宜キヲ得サルモノニシテ立法ノ精神決テ此ノ如キモノニ非サルヘシ故ニ余ハ猶ホ無期徒刑ヲ以テ本刑ナリト解セント欲ス

○佛刑法第四百三十五條

第百十條ニ全交ヲ掲ク

第四百十六條

前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セサル船舶ヲ覆没シタル

者ハ輕懲役ニ處ス

○本條ハ人ヲ乗載セサル船舶ヲ覆没シタル者ノ罪ヲ定ム

人ヲ乗載セサル船舶ヲ覆没シタルトキハ人ノ身體生命ヲ危フスルノ恐レナシ故ニ人ヲ乗載セサル船舶ヲ燒燬シタル者ト權衡ヲ取り無期徒刑ヨリ三等ヲ減シタル所ノ輕懲役ニ處スヘシト定メタリ

或問テ曰ク第百六十九條ニ於テハ人ヲ乗載セサル船舶ノ覆没ニ至リタルトキト雖モ之ヲ無期徒刑ニ處スヘシト定メ本條ニ於テハ僅ニ其刑ヲ輕懲役ニ止メタルハ何ソヤト曰ク彼此其害ヲ同フセサルカ故ナリ請フ左ニ之ヲ辨セン

第六十九條ハ第六十五條及ヒ第六十六條ノ罪ノ結果ヲ定ムルモノナリ其船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル所爲既ニ重ク其刑重懲役ニ該ル而シテ其結果タル時トシテハ一二ノ船舶ヲ覆没スルニ止マラサルコトアリ故ニ之カ爲メ船舶ノ覆没ニ至リタルトキハ縱ヒ人ヲ乗載セサルモノト雖モ仍ホ其刑ヲ重クセサルヘカラス之ニ反シ本條ハ特ニ其目的ト爲ス所ノ船舶ヲ覆没スルモノニシテ一所爲ノ數隻ヲ覆没スヘキモノナラス且其方法タル所爲ノ特立シテ別罪タルモノコト非サレハ其害小ナリ故ニ其刑輕カラサルヲ得ス是レ彼此其刑ニ輕重ノ差アル所以ナリ

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

○本節凡テ八條家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪ヲ定ム

家屋物品ヲ毀壞スルトハ人ノ家屋其他ノ建造物家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾田圃ノ樊園牧場ノ柵欄土地ノ經界ヲ表シタル物件人ノ器物權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄スルヲイフ又動植木ヲ害スルトハ人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シ及ヒ牛馬其他ノ家畜ヲ殺戕スルヲイフ

第四百十七條

家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪 第四百十七條

人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

〔一〕〇本條ハ人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者及ヒ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ノ罪ヲ定ム

要

毀壞罪中家屋其他建造物ヲ毀壞スル罪最モ重シ故ニ本條之ヲ一月以上五年以下ノ重禁錮及ヒ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ此ノ如ク本條ノ刑長短兩期ノ間殊ニ長キモノハ是レ此罪ハ其結果ニ因リ或ハ重ク或ハ輕ク變化甚タ多キヲ以テ實際上執法官ヲシテ適應ノ刑ヲ選定セシメンカ爲メナリ

本條ノ罪ハ三箇ノ條件ヲ必要ト爲ス曰ク人ノ家屋其他ノ建造物ナルコト曰ク之ヲ毀壞シタルコト曰ク故意ヲ以テシタルコト是レナリ

第一條件 本條ニハ人ノ家屋其他ノ建造物トアリ故ニ其家屋建造物ハ犯人ノ所有ニ屬スルモノニ非サルコトヲ必要ト爲スヤ明カナリ因テ茲ニ一ノ問題アリ曰ク自

己ノ所有ニ屬スル家屋建造物ハ人ニ貸與シ或ハ質入シタルモノト雖モ之ヲ毀壞シテ法ニ觸レサル乎ノ點是レナリ實ニ他人ニ貸與シタル家屋ノ類ヲ毀壞スルハ借家人等ノ權利ヲ害スル甚シキモノナリト雖モ本項特ニ人ノ家屋云々ト書シタルハ之ヲ罰スルヲ得ス唯民事上損害賠償ノ責アルニ過キサルナリ然レトモ立法上ヨリセハ之ヲ罰スル方允當ナラン故ニ余ハ本條ニ但書ヲ設ケ自己ノ所有ニ屬スル家屋建造物ト雖モ他人正當名義ヲ以テ占有スルモノニ係ルトキハ一等ヲ減シテ之ヲ罰スヘシト定メテレシコトヲ希望ス

第二條件 毀壞ハ即チ本項ノ罪ノ本體ナリ故ニ毀壞ヲ爲シタルトキ始メテ其罪成立スルモノナリ

家屋建造物ヲ毀壞スルハ放火決水ノ二方法ヲ以テスル場合ヲ除クノ外ハ悉ク本條ノ正面ニ當ルヘキナリ而シテ茲ニ所謂毀壞トハ家屋建造物ノ全部ヲ毀壞スルヲ要スルモノニ非ス其一部分ヲ毀壞シタル者亦同シ故ニ家屋構造ノ一體ヲ爲シテ動スヘカラサル土壁柱楹天井ノ類ヲ毀壞シタル者モ亦本條ノ正面ニ當ルモノナリ

第三條件 故意ノ點ニ付テハ別ニ論スヘキモノナシ

〔三〕〇第二項 本項ハ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ノ罪ヲ定ム

家屋建造物ヲ毀壞スルトキハ爲メニ人ヲ死傷ニ致スコトナキニ非ス其人ヲ死傷ニ致シタルハ故意ニ出テスト雖モ而モ故意ヲ以テ爲シタル毀壞ノ結果ナリ故ニ犯人

其責ニ任セサルヘカラス是レ本項ニ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スヘシト定メタル所以ナリ

○佛刑法第四百三十七條五月八日百三十六日改正何人ニ限ラ

ス他人ニ屬スルコトヲ知リタル建造物橋梁堤防塙塘又ハ其他ノ建築物ノ全部又ハ一分ヲ其方法ノ如何ヲ問ハス故意ヲ以テ毀壞シ或ハ顛覆シ又ハ故意ヲ以テ蒸氣機械ヲ破烈セシメタル者ハ懲役及ヒ物件返還損害賠償ノ四分ノ一以下百「フ」以上ノ罰金ニ處セラルヘシ刑七、一、二、一、五、一、六、一、九、二、以下、二、八、以下、若シ人殺又ハ創傷アリタルトキハ犯人ノ人殺ノ場合ニ於テハ死刑ニ創傷ノ場合ニ於テハ有期徒刑ニ處セラルヘシ刑七、一、二、一、五、一、六、一、九、二、以下、二、八、以下、

第四百十八條

人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 本條ノ解
- 二 本條ヲ改正スヘキノ説

〔二〕○本條ハ家屋田圃ノ外圍園池ノ裝飾等ヲ毀壞シタル者ノ罪ヲ定ム

牆壁トハ土石竹木其他何物ヲ以テシタルトヲ問ハス一切ノ牆壁ナイフ

○門戸モ亦之ヲ牆壁ノ中ニ入ルヘキ乎高木村田小笠原ノ

諸氏ハ皆然リトセリ然レトモ若ク勿々スヘカラス牆壁
中ニ設ケアル所ノ木戸ニ類スル門ノ如キハ之ヲ牆壁ト
イフモ不可ナシト雖モ長屋門ノ如キ寺院ノ門ノ如キ堂
々タルモノニ至テハ寧ロ建造物トイフヘクシテ牆壁ト
イフヘカラサルナリ故ニ實際建造物ノ部類ニ入ルヘキ
門戸ハ之ヲ建造物ト爲シ然ラサルモノ、ミ牆壁ヲ以テ
論スヘキナリ

又園池ノ裝飾トハ燈籠、垣籬、橋梁、畫像、標杭、噴水機ノ類ヲ
イヒ田圃ノ樊園トハ土石竹木柴草等ヲ以テシタル一切
ノ繞圍ヲイフ牧場ノ柵欄ハ別ニ解釋ヲ要セス
其方法ノ何タルヲ問ハス此等ノ物ヲ毀壞シタル者ハ之
ヲ前條ノ罪ニ比スルニ其害小ナリ且時ニ因リ其害ノ最

モ微小ニシテ之ニ體刑ヲ科スヘカラスルモノアリ故ニ
本條ノ罪ハ之ヲ十一日以上三月以下ノ重禁錮又ハ二圓
以上二十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ

〔三〕○本條ハ其指定スル所狹隘ニ失スルカ如シ例ヘハ井戸
ヲ毀損シタル者物乾場ヲ毀損シタル者ノ類ハ何ニ依テ
之ヲ罰スヘキ乎之ヲ建造物トイフヲ得ス又之ヲ器物ト
イフヲ得ス必スヤ不問ニ付セサルヘカラスルヘシ蓋シ
此ノ如キ物ハ牆壁等ト其權衡ヲ同フスルモノナレハ宜
ク本條ニ之ヲ定メサルヘカラス佛文刑法草案第四百六
十六條ニ曰ク故ラニ家屋ノ附屬物園圃田圃ノ裝飾牆壁
ヲ毀損シタル者ハ云々ト一切ノ附屬物ヲ毀損シタル者
ヲ罰セント欲セハ必スシモ草案ノ如ク改正セサルヘカ

ラサルナリ

○佛刑法第四百五十六條 何人ニ限ラス全部ト一分ト
 ナ問ハス溝渠ヲ填メ如何ナル材料ヲ以テシタルヲ
 論セス繞圍ヲ毀損シ生籬或ハ籬牆ヲ伐リ若クハ拔
 キタル者又何人ニ限ラス境標或ハ境界ノ樹木其他
 二箇ノ所有地ノ間ノ境界ヲ定ムル爲メニ植ヘ又ハ
 分界ヲ定ムルモノナリト認メラレタル樹木ヲ移轉
 シ又ハ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ禁錮及
 ヒ物件返還損害賠償ノ四分ノ一ニ等キ罰金ニ處セ
 ラルヘシ其罰金ハ如何ナル場合ニ於テモ五十「フ
 ンク」以下タルコトヲ得ス 〔刑〕九、四〇以下、五二以下、
 四六、二〔治〕一七九、

第四百十九條

人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一
 日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓
 以下ノ罰金ニ處ス

○本條ハ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ノ罪
 ナ定ム

稼穡トハ米麥粟稗其他食用ニ供スヘキ植物ヲイヒ其他
 需用ノ植物トハ茅蔴草ノ類ヲイフ
 稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ家屋建造物
 ナ毀損シタル者ヨリモ其害小ナリ故ニ其刑輕シ而シテ
 其事ノ微小ニシテ之ニ體刑ヲ科スヘカヲサルモノアリ
 故ニ本條モ亦前條ト同ク體刑ト金刑トヲ設ケ實際裁判
 官ヲシテ事ノ輕重ニ因リ或ハ體刑ヲ言渡シ或ハ金刑ヲ

第四百十九條

言渡サシムルモノナリ
 本條ニハ廣ク植物ヲ毀損ストアレトモ夫ノ路上ノ植木
 ヲ毀損シ及ヒ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ
 採折スルノ類ハ違警罪ニシテ本條ニ依テ處斷スルノ限
 ニ在ラサルナリ又火ヲ放テ之ヲ毀損シ第四百六條ニ該
 當スル者ハ同條ニ依テ處斷スヘキナリ

○佛刑法第四百四十四條 何人ニ限ラス根ニ依テ土地
 ニ附着スル收穫物又ハ天然ニ生シ若クハ人工ニ依
 レル苗木ヲ毀損シタル者ハ二年以上五年以下ノ禁
 錮ニ處セラレヘシ
 犯人ハ尙ホ裁判言渡ニ因リ五年以上十年以下ノ時
 間監視ニ付セラレ、コトアルヘシ〔刑〕九、一、四〇、五以

〔治〕一七六、九、二、

同第四百四十五條 何人ニ限ラス他人ニ屬スルコト
 ヲ知リタル一株又ハ數株ノ樹木ヲ伐倒シタル者ハ
 樹木一株毎ニ六日以上六月以下ノ禁錮ニ處セラレ
 へシ但合シテ五年ニ過クルコトヲ得ヌ〔刑〕九、四〇、以
〔治〕一七九、四、五、五、

同第四百四十六條 其刑ハ枯死セシムヘキ様傷ケ伐
 リ又ハ皮ヲ剥キタル各樹木ニ付キ同一タルヘシ〔民〕
四、四、八、五、四

同第四百四十七條 若シ接木一株又ハ數株ヲ毀損シ
 タルトキハ一株毎ニ六日以上二月以下ノ禁錮ニ處
 セラルヘシ但合シテ二年ニ過クルコトヲ得ヌ〔刑〕九、
四、〇

第四百十九條